



公益財団法人日本財団 助成事業

2019 年度

「発達障害児者家族支援全国
ネットワーク構築」
活動報告書

2020 年 3 月

特定非営利活動法人 アスペ・エルデの会

目次

1. 事業の目的・目標	1-2
1-1 目的	
1-2 目標	
2. 事業内容・事業実績	3
<活動実績>1 ペアレント・プログラム実施資格認定者へのスーパービジョン	4
愛知県安城市	5
愛知県大府市	6
兵庫県西宮市	7
佐賀県鹿島市	8
東京都杉並区	9
佐賀県唐津市	10
愛知県一宮市	11
石川県小松市	12
愛知県岡崎市	13
愛知県碧南市	14
岡山県岡山市	15
<活動実績>2 スーパーバイザー研修	16
2-2 全国ペアレント・プログラム交流会	17
2-3 幼児期発達支援セミナー	19
3. 事業成果物	20
4. 全体の成果 及び 今後の課題・取り組みについて	20
巻末資料	21-34

1. 事業の目的・目標

1-1 目的

発達障害やその特性のある子どもの家族への支援体制は不十分なため、国は家族支援の重要性を強調し、厚生労働省障害者総合福祉推進事業等を通して当会が開発したペアレント・プログラムの普及に期待を寄せている。既に全国で約 600 名の支援者が実践参加型の研修を終え、平成 28 年度より貴財団助成下で開始した支援者資格認定を受けている。しかし、研修及び資格認定を受けた支援者のサポートと各地域の実施体制構築は未だ途上であり課題として残っている。本事業では、引き続き支援者へのスーパービジョンと自治体との連携提案、2020 年のマニュアル改訂に向けて地域の実情に応じたプログラムの在り方について検討を行う。行政職員の参加を積極的に促し自治体の中で継続的な保護者支援を行うことによって、未来を担う子ども達の健全育成を図ることを目的とする。

1-2 目標

本事業では、平成 28 年度事業から開始したペアレント・プログラム実施資格認定を受けた支援者のスーパービジョンを全国 12 か所程度で実施していく予定である。支援者にとってはプログラムの参加型研修を終えた後のサポート体制が作られるため、地域や所属施設でのプログラムの実施が容易になる。よって、限られた講師が各地に出向いてプログラムを実施する現在の形態から、本事業において認定を受けた支援者が各地域で支援者育成を行いながら、地域に根付いた保護者支援のネットワーク体制へと移行が促進される。

さらに、全国の実施資格認定者との全国交流会を開催し、各地の実情について意見交換や情報共有を行う。また、全国交流会の中では、2020 年発行予定のペアレント・プログラムマニュアル改訂版を見据え、現プログラムの内容や進行に関して修正点や改良点についても広く意見を募り、とりまとめを行う。

そして、今後の展望として、地域でペアレント・プログラムを活用した子育て支援体制が構築された自治体から、保育現場において子どもの発達を促進する支援技術獲得のために JASPER プログラムの導入を目指している。

このように本事業は、遊びを通した発達支援の技術を支援者が身に付けていくための基盤を構築し、虐待リスクのある保護者に対する予防的支援の実現と子どもの豊かな発達と幸せな未来の保障へと繋がる非常に有意義な取組みとして期待される。

事業名 (インターネット申請の入力項目番号76) (事業内容を端的に表してください)

発達障害児者家族の支援者育成支援

①取り組みたい課題 (現状はどうなっているのか?)

発達障害やその特性のある子どもたちの家族 (保護者) への支援体制は不十分のため、国は家族支援の重要性を強調し、厚生労働省障害者総合福祉推進事業等を通して当会が開発したペアレント・プログラムの普及に期待を寄せている。既に全国で約600名の支援者が実践参加型の研修を終え、平成28年度より員財団助成下で開始した支援者資格認定を受けている。しかし、研修及び資格認定を受けた支援者のサポート体制及び全国的な支援者間のネットワーク構築は未だ途上であり課題として残っている。さらに、保育機関において、特別な配慮や支援が必要なお子ども達への支援の在り方は、未だ未確立である。加配の職員は存在しても有効な支援を展開する技術や方法論が確立されていないという課題がある。

②原因と解決策 (どういった論理で、事業内容を考えたか?)

ペアレント・プログラムは、子育てに難しさを感じた保護者が、誰でも身近な地域で支援を受けられるための支援ツールとして開発されたものである。よって、全国にペアレント・プログラムを正しく実施できる支援者の育成が不可欠となる。現在、すでに認定証を取得する支援者が各地で研修型ペアレントのメンツァリティーを務めながら、地域で支援者の育成を始めている。しかし、実施・進行に際して悩みや迷いを抱えながら進めている段階にあり、地域にスーパバイザー(以下、SV)を発行する支援者 (スーパバイザー) を育成する必要があり、弊会では昨年からSVを開始し、SVを受けた支援者にその手法を学んでいただくつつ、近い将来スーパバイザーとなつていただけたらという育成している。そして、交流会という機会の設定により全国各地の取組みをシェアし合い、より地域の実情に即したプログラムに発展させるために改訂版発行の準備を進める。さらに、家族支援体制が構築された自治体から順に、まず保育所において発達を促進する支援手法としてJASPERプログラムを導入していきけるよう支援者向けのセミナーを設定している

⑤事業目的 (インターネット申請の入力項目番号79) (中長期的、最終的にどうなしてほしいか?)

中長期的な目的は、発達障害等の診断の有無に関わらず、気軽に相談できる自治体主体の家族支援体制が全国に確立することによって、悩んだ末の虐待といった不適切な子ども達への関わり方の減少を促すことである。そのために、全国的なネットワークを構築し支援者育成支援体制の確立も並行して実現していく。さらに、上記のような家族支援体制が整った自治体から順次、保育機関にて加配の保育士等が支援を要する子どもに対して遊びを通じて発達を促進できるJASPERプログラムを活用した発達支援技術の修得を後押ししていく。最終的には、発達障害やその特性のある子ども達の家族への支援、並びに、こうした子ども達の発達を促進する支援が全国で当たり前に提供され、未来を担う子ども達の健全育成を図ることを目的とする。

③事業内容 (インターネット申請の入力項目番号81) (助成事業の活動)

- 資格認定者へのスーパバイザー
 - 時期: 2019年6月~2020年2月
 - 場所: 愛知県、東京都、熊本県、長崎県、静岡県、山形県、鹿児島県、福岡県、宮城県、大阪府、沖縄県、高知県等にて12カ所程度で実施予定。
 - 対象者: ペアレント・プログラム実施資格認定者であり、認定された地域においてペアレント・プログラムを実施している者
 - 内容: 第2回目と第4回目を終えたタイミンの2回を基本として、プログラム会場内スーパバイザーが主役のスーパーバイザーセッション或いは、2回目から3回目までの期間中に対面或いはスカイプを利用したスーパーバイザーセッションを実施する。
- 全国ペアレント・プログラム交流会の実施
 - 時期: 2019年8月 (予定)
 - 場所: 名古屋企業福祉会館 (予定)
 - 対象者: 自治体職員、保育士、保健師、福祉事業所職員等 (合計150名程度)
 - 内容: 交流会 (地域におけるペアレント・プログラム実施状況報告、意見交換他)
- 幼児期発達支援セミナーの実施
 - 時期: 2019年8月 (予定)
 - 場所: 名古屋企業福祉会館 (予定)
 - 対象者: 自治体職員、保育士、保健師、福祉事業所職員等 (合計150名程度)
 - 内容: JASPERプログラム概要研修
- 報告書の作成
 - 時期: 2020年1月~3月 (予定)
 - 内容: 活動報告・各地域の取組み状況・マニュアル改訂個所の状況・マニキュアル改訂個所のまとめ他

④事業目標 (単年度の事業の成果を、何の指標で図り、どこまで達成したいか?)

- 資格認定者へのスーパバイザー

全国12カ所程度の地域において、スーパバイザーとして支援者を育成する。
- 全国ペアレント・プログラム交流会の実施

各地の実情を把握し、地域に根差したプログラムの進行方法を把握する。さらに、2020年にペアレント・プログラム改訂版を発行できるように、改訂個所を整理する。
- 幼児期発達支援セミナーの実施

支援者が、JASPERプログラムの概要と支援における有効性を理解することができる。さらに、自治体の取組みとして事業展開していくために予算化を目指して地域で具体的な検討に入れるよう、関係者間での情報共有を図る。
- 報告書の作成

2020年発行予定のペアレント・プログラムマニュアル改訂版に掲載する改訂個所の整理を行う。

2. 事業内容・事業実績

本事業を進めるにあたり、以下の URL のペアレント・プログラム専用ホームページを昨年度、開設した。 <https://sites.google.com/site/npofarenasupeerudenhui/home>
今年度も引き続き活用した。



<実施計画>

2-1 ペアレント・プログラム実施資格認定者へのスーパービジョン

- (1) 時期：2019年6月～2020年2月
- (2) 場所：愛知県、東京都、熊本県、長崎県、静岡県、山形県、鹿児島県、福岡県、宮城県、大阪府、沖縄県、高知県等にて12カ所程度で実施予定。
- (3) 対象者：ペアレント・プログラム実施資格認定者であり、認定された地域においてペアレント・プログラムを実施している者
- (4) 内容：第2回目と第4回目を終えたタイミングの2回を基本として、プログラム会場内へスーパーバイザーが赴いてのスーパービジョン或いは、2回目から3回目までの期間中に対面或いはスカイプを利用したスーパービジョンを実施する。

2. 全国ペアレント・プログラム交流会の実施

- (1) 時期：2019年8月（予定）
- (2) 場所：名古屋企業福祉会館（予定）
- (3) 対象者：自治体職員、保育士、保健師、福祉事業所職員等（合計150名程度）
- (4) 内容：交流会（地域におけるペアレント・プログラム実施状況報告、意見交換他）

3. 幼児期発達支援セミナーの実施

- (1) 時期：2019年8月（予定）
- (2) 場所：名古屋企業福祉会館（予定）
- (3) 対象者：自治体職員，保育士，保健師，福祉事業所職員等（合計150名程度）
- (4) 内容：JASPERプログラム概要研修

4. 報告書の作成

- (1) 時期：2020年1月～3月（予定）
- (2) 内容：活動報告・各地域の取組み状況・マニュアル改訂個所のまとめ他

<活動実績>

1. 資格認定者へのスーパービジョン（SV）

…全国12カ所程度の地域において、実施資格認定者が実施するペアプロに対するスーパービジョンを行う。

- (1) 時期：2019年9月～2020年2月 計20回
- (2) 場所：計11カ所。開催日時、スーパーバイザーと共に、以下の表に示す。

№	都道府県	スーパーバイザー名	日程状況	連携団体名
1	佐賀県	佐賀大学准教授 中島俊思氏	①第2回目：2019年9月27日（金） ②第4回目：2019年10月25日（金）	佐賀県西部発達障害者支援センター蒼空
2	東京都	神戸学院大学 村山恭朗氏	①第2回目終了後2019年9月30日（月） ②第4回目：2019年10月19日	杉並区立こども発達センター
3	兵庫県	大阪大学 望月直人氏	①第2回目2019年9月19日（木） ②第4回目2019年10月10日（木）	西宮市役所 地域・学校支援課（こども未来センター）
4	愛知県	愛知東邦大学 高柳伸哉氏	①第2回目 2019年12月20日（金） ②第4回目 2020年1月24日（金）	一宮市中央子育て支援センター
5	石川県小松市	神戸学院大学 村山恭朗氏	②2019年10月17日（木） ④2019年11月14日（木）	小松市発達支援センターえぶりい
6	愛知県大府市	中京大学・NPO法人アスペ・エルデの会 辻井正次氏	①2019年7月5日（金） ②2019年7月29日（月）	大府市児童課
7	岡山県	岡山大学 原田新氏	①2020年1月7日（火） ②2020年1月28日（火）	アリスの会
8	愛知県岡崎市	NPO法人アスペ・エルデの会 宮地菜穂子氏	①2019年11月15日（金）	西三河児童・障害者相談センター
9	佐賀県	佐賀大学 中島俊思氏	①第2回目 2019年10月1日（火） ②第3回目 2019年10月15日（火）	佐賀県西部発達障害者支援センター蒼空
10	愛知県安城市	愛知東邦大学 高柳伸哉氏	①電話&メールによるSV 2019年11月15日（金）	安城市子ども発達支援課
11	愛知県碧南市	愛知東邦大学 高柳伸哉氏	①2019年10月28日（月） ②2019年12月5日（木）	碧南市役所 福祉こども部福祉課

<電話によるSV> …計1回

スーパーバイザーより

スーパービジョン(SV)実施報告書

お名前	高柳 伸哉	資格認定番号	2119005		
ご所属	愛知県立大学	研修型ヘアプロ開催地	安城市		
研修型ヘアプロ	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
実施日程	9/12	9/26	10/10	10/24	11/14
スーパーバイザー名	1回目 高柳 伸哉 2回目				
スーパーバイザー実施日時	1回目 2019年11月15日 2回目				

☆ 認定者が行うヘアプロの様子及びスーパーバイザーから認定者への助言内容等について。

- ・日程上の都合から開催地域への訪問が実現できなかったため、窓口担当職員とのメールでの連絡や電話による質問への対応を行った。事前のメール対応で挙げられた質問は、保護者へのワークの内容や参加者へのサポートに関する確認や、声掛けの仕方などのサポートにおける工夫、助言しすぎるスタッフへの対処、養育行動尺度PNPSの活用仕方などであった。
- ・スーパーバイザーはファイルに記入する形で安城市の担当者に返信した後、さらに詳細に質問させてほしいという要望から、11月15日に電話対応を行った。電話では、具体的な参加者の様子と支援が必要と思われる保護者への対応やプログラムにおける扱いなど、紙面でのやり取りでは扱いが難しい話題が多く挙げられた。また、プログラム全体としてはうまく進められているものの、ヘアワークに乗れない参加者やプログラムへの欠席が目立つ参加者などへの対応に担当者・スタッフが困惑している様子がうかがえた。
- ・スーパーバイザーからは担当者・スタッフの間わりがあるからこそうまく行っていること、参加者にも様々な背景（個人的な要因、気持ちの状態など）があるため、うまくいかないこともありえることを確認した。また、安城市では個別支援などのフォローに繋がっていること自体が強みであることも肯定的に伝えた。

☆ SVを通して把握された今後のSV体制の在り方について。

- ・今回は初めてのメール相談・電話相談という形式でのSVであったが、ヘアプロが各地に広がっていく中で、こうした遠隔地とのやりとりは必然的に増えていくものと考えられる。
- ・実際のヘアプロの様子を見学することはできなかったこと、また直接担当者・スタッフから話を聞いたり資料を見たりしながら助言できなかったため、プログラムに關しての具体的な支援ではなく、担当者・スタッフが抱えている悩みや不安を解消することに焦点を当てた。
- ・今回のSVでは、情報から推測するに現在の子育てだけでなく、生活歴等の様々な背景を抱えた参加者に対し、うまくプログラムに乗せられないことがスタッフ側の困り感であることがうかがえたため、ヘアプロにおいてすべての参加者がプログラムの内容理解や目的を達成できるわけではないことを伝え、以降や地域支援するためのきっかけに活用してもらおうという視点を持ってもらうことを重視した。
- ・SVを受ける地域・スタッフも、ともすれば評価される不安やうまくできないと自責に陥る傾向もあるため、スーパーバイザーによる心理的なフォローや理系的な善し所の助言というポイントは、今後ヘアプロが普及していくに当たって必要不可欠であると思われる。

スーパービジョン(SV)ご利用に関する報告書

お名前	柏木 秋子	資格認定番号	2119005		
ご所属	安城市子ども発達支援課	研修型ヘアプロ開催地	安城市		
研修型ヘアプロ	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
実施日程	9/12	9/26	10/10	10/24	11/14
スーパーバイザー名	1回目 高柳 伸哉 先生 2回目				
スーパーバイザー実施日時	1回目 11/15 電話12:40~13:10 2回目				

☆ ヘアプロ(研修型講師を含む)のメインファシリテーターを担当して生じた疑問点、地域の特徴や地元の実情から生じる難しさ・必要となる配慮などについて以下にお書きください。

別紙添付のとおり、文章(メール)にて回答いただき、その後電話にてご助言いただきました。

☆ スーパーバイザーから得た助言を以下にお書きください。

- 別紙添付のとおり、文章にて回答いただきました。その他、電話にて頂いた助言について
- ①途中3回休んだ参加者の方をどうとらえるか、その方は「子どもにもほめポイントはない」と言い切っているかたで、ヘアプロ自体合わないという個別相談で相談員に言っていた。
→ほめて、変化を期待するまでは難しい。母が母自身の頑張りを認められることの方が大事。
- ②ヘアワークの組み合わせについて。前回のヘア組がとてよかつたので、次回も同じにしてよいか。
→良い。毎回初めての同人社でなくても良い。
- ③PNPS検査結果を参加者に返すことについて
→個別相談での利用できる。
教室前後で記入したのを参加者自身が見て比較してみても良いかも。注意点は記入時に何かストレスが他に
あると影響受けて点数が悪くなることもあるため、点数が悪くなつたからと悲観しないように先に伝えておく。

スーパーバイザーより

スーパービジョン(SV)実施報告書

お名前	辻井正次	資格認定番号	
ご所属	中京大学・アスベ・エルデの会	研修型ペアプロ開催地	愛知県大府市
研修型ペアプロ実施日程	1回目 2019/6/12 2回目 2019/6/26 3回目 2019/7/10 4回目 2019/7/24 5回目 2019/8/7 6回目 2019/8/21		
スーパーバイザー名	1回目 辻井正次 2回目 辻井正次		
スーパーバイザー実施日時	1回目 2019/07/05 9時~10時 2回目 2019/7/29 9時~10時		

☆ 認定者が行うペアプロの様子及びスーパーバイザーから認定者への助言内容等について。

愛知県大府市では、公立保育園の保育士が役割（司会・書記・サブ・アシスタント）を交代しながらペアプロを実施している。所属している保育園の保護者が参加される場合もあり、実施者と参加者の距離感が近く、参加者が発言しやすい場になっていた。また、ペアプロの経験を積んでいる保育士が実施していたため、進行にも慣れておりスムーズに進めることができていた。

スーパーバイザーからは、「行動で書く」ことについて改めて助言があった。2回目までは、行動を具体的に書いていないと、ギリギリセーフ行動が出てこないことや、セーフとギリギリセーフは違うことについても説明があった。また、ペアの作り方についても現状把握表が書けている人と書けていない人で分けると良いことや、カテゴリー分けの作業をする回は事前に実施側がカテゴリーを考慮しておくこと等の助言もあった。

託児を利用する子どもの中に持病がある子どもがおり、そういった場合に事前に保護者から状態像を聞いておくように助言があった。また、母子家庭や父子家庭といった場合でなくても、家庭に何らかの事情がある場合は「宿題を家族の人に見せる」という宿題は、保育園の先生に見せるようにしても良いというアドバイスもされた。

☆ SVを通して把握された今後のSV体制の在り方について。

愛知県大府市では、数名の保育士が実施側としてペアレント・プログラムを実施している。司会や書記、サブ、アシスタントの他に託児を担当している保育士も数名いる。SVでは、実施する支援者への助言とともに託児の様子を報告し、気になる子どもの様子をスーパーバイザーに報告し、助言を受けることもあった。数名の保育士が関わっていることもあり、SVは2回目と4回目の終了後に会議室等で集まり1時間弱行っている。その際は、保育士の他に地域の子育て支援施設の所長や指導保育士も参加した。

ペアレント・プログラムのSVでは、実施をする上で困ったことを相談できる場でもあるが、地域で子育てをする支援者にとって保護者や子どもについての情報共有ができる貴重な時間となっていると考える。

スーパービジョン(SV)ご利用に関する報告書

お名前	藤本 浩子	資格認定番号	
ご所属	長草保育園	研修型ペアプロ開催地	愛知県大府市
研修型ペアプロ実施日程	1回目 2019/6/12 2回目 2019/6/26 3回目 2019/7/10 4回目 2019/7/24 5回目 2019/8/7 6回目 2019/8/21		
スーパーバイザー名	1回目 辻井正次 2回目 辻井正次		
スーパーバイザー実施日時	1回目 2019/07/05 9時~10時 2回目 2019/7/29 9時~10時		

☆ ペアプロ(研修型講師を含む)のメインファシリテーターを担当して生じた疑問点、地域の特徴や地元の実情から生じる難しさ・必要となる配慮などについて以下にお書きください。

参加される保護者によって理解度が異なるため、どのように説明をすればよいか悩むことがある。細かい説明をする時間がなくなってしまい、時間配分が難しい。参加者が10名以上になることが多く、そういった場合発表の時間が長くなり余計に時間の調整が難しくなる。

また、個々でワークをする時間では、参加者が納得するようになら声掛けをするのが難しい。助言や説明をしても腑に落ちない様子もみられ、その場でどういった声掛けをすればよいか悩むことがある。

SVの中で、スーパーバイザーから助言を頂けるが、実際に保護者に対してどのように声掛けをしているのか、どのように課題を進めているのか見学してみたい。現在、保育園での保育の時間があるため、実現は難しいが見学をしたい気持ちはある。

☆ スーパーバイザーから得た助言を以下にお書きください。

- ・子どもが双子やきょうだいがいる場合は、子ども一人につき一枚現状把握表を書いてもらう。
- ・託児を利用する子どもに持病がある場合は、事前に母親から状態像を聞いておく。
- ・ペアを作る時は、現状把握表が書けている人と書けていない人で組み合わせようにする。
- ・「カテゴリー分け」に作業をする回は、実施側が事前にカテゴリーを考慮しておく。
- ・宿題は、「ほめる」ことよりも「実況中継」をしていくことを重点的にする。
- ・「困っていること」が具体的にないとギリギリセーフが出てこないで、具体的に考えてもらうよう促す。
- ・セーフとギリギリセーフは違う。ギリギリセーフとは、「子どもはここまでできています」を見つけてもらう。また、ほめポイント。
- ・母子家庭や父子家庭でなくても、家庭に何らかの事情がある場合は「家族の人に現状把握表を見せてもらう」宿題は、保育園の先生に見せるでも良い。

スーパーバイザーより

スーパーバイジョン(SV)実施報告書

お名前	望月 直人	資格認定番号			
ご所属	西宮市子ども未来センター	研修型ヘアプロ開催地	西宮市		
研修型ヘアプロ実施日程	1回目 9/19	2回目 9/19	3回目 10/10	4回目 10/10	5回目 10/10
スーパーバイザー名	1回目 望月 直人	2回目 望月 直人			
スーパーバイザー実施日時	1回目 9/19	2回目 10/10			

☆ 認定者が行うヘアプロの様子及びスーパーバイザーから認定者への助言内容等について。

- ①全体の雰囲気づくりを配慮されており、2回目の段階でグループの雰囲気はポジティブで明るく、楽しいものとなっていた。
- ②アシリエーターの説明時の例を上げる際に、マニュアルに頼りすぎていて、自分の実体験の例文が提示されていなかったのことで、説明時の理解力が十分ではなかったように感じられた。
- ③アシリエーターが進行に注意を向けすぎて、参加者の指図の記述のチェックが十分でない場面がみられた。具体的には、行動で書くことと自由に困難さがあったり、「よいところ」、「努力しているところ」のカテゴリーに「〜ない」の表記がなされている記述が見られたが、それについては言及することなく、進行していた。
- ④ヘアプロではまず参加者が次回も参加したいと思ってもらうことが大切なので、明るくて温かい雰囲気作りは大切である。
- ⑤マニュアルをただ覚えるだけでなく、自分のセリフとすることや、実体験を話すほうが教示はしやすい。
- ⑥アシリエーター何回か経験すると、少し余裕もできて、記述内容も枝かきも思われるようになる。また、記述内容から、唐澤等のリソースなども推定される場合があるので、そういった場合の対処法や情報共有のあり方の検討が必要であること。

☆ SVを通して把握された今後のSV体制の在り方について。

- 2回目、4回目だけでなく、他の回でもニーズがあると思われるが、そういった場合の助言方法のあり方が課題。Skypeなどwebを使っているSVはできないだろうか。
- SVで伝えるべきポイントの整理や収集

スーパーバイジョン(SV)ご利用に関する報告書

お名前	片町 聖河江 輝司	資格認定番号			
ご所属	西宮市子ども未来センター	研修型ヘアプロ開催地	西宮市子ども未来センター		
研修型ヘアプロ実施日程	1回目 9月5日	2回目 9月19日	3回目 9月26日	4回目 10月10日	5回目 10月17日
スーパーバイザー名	1回目 望月直人	2回目 望月直人			
スーパーバイザー実施日時	1回目 9月19日	2回目 10月10日			

☆ヘアプロ(研修型講師を含む)のメインファシリテーターを担当して生じた疑問点、地域の特徴や地元の実情から生じる難しさ・必要となる配慮などについて以下にお書きください。

- ・対象が就学児の保護者の場合、保護者の困りごとが不登校や暴力等の対応が難しいケースがあり、ワークでの共有が難しくなることが想定されるため、参加者の募集に苦慮することがある。
- ・具体的なプログラムの進め方や参加者への介入方法。
- ・唐澤的なエピソードが参加者から出た時の対応方法。

☆スーパーバイザーから得た助言を以下にお書きください。

- ・全体的な雰囲気や説明の仕方は良かった。2回目は今後の参加に向けてのモチベーションを保つことが大切。
- ・タイムマネジメントの問題はよくあること。最初に発表した方は発表が長くながいため、長くならそうな方は最後のほうには発表してもらって、発表者の思いは含めず文章で端的に発表してもらって工夫が必要。
- ・発表内容は行動でかけているかが確認できればよいが、コメントを返してあげると参加者の満足度も上がる。
- ・参加者のヘアアレンジもよく、進行役の介入も自然な介入だった。初回は職員が介入しながら活発にワークができるように介入していくが、少しずつ介入の度合いを減らして参加者同士でワークが進められるようにする
- とよい。
- ・2回目で現状把握表が行動でかけているかが今後を左右する。なぜ、動詞で書くことが大切なのかも説明してあげるとよい。
- ・参加者が多い場合は発表のたびに全員に発表してもらうのは時間的に難しい。回ごとに万遍なく発表の機会があればよい。全員に発表してもらって、一対一だけにとどめる。基本的に8人を超えるとタイムコントロールが難しくなる。
- ・参加者が多数の場合は3人グループになってよいが、均等に話ができるように確認が必要。プログラムについていざづらいつらいつらいる場合は職員とのヘアがいろいろある。
- ・発表内容に唐澤行為が含まれる場合は、プログラム中にその話題に介入していくのは難しい。その後の個別対応になる。
- ・家族を強調すると母子家庭の方もいることもあるため、注意が必要。
- ・マニュアルどおりに事例を紹介してもいいが、進行役自身のオリジナル事例や過去にあった事例を紹介できるとよりよい。

スーパーバイザーより

スーパービジョン(SV)実施報告書

お名前	中島 俊忠	資格認定番号	
ご所属	佐賀大学	研修型ペアプロ開催地	佐賀県鹿島市
研修型ペアプロ実施日程	1回目 9月13日 2回目 9月27日 3回目 10月11日 4回目 10月25日 5回目 11月8日 6回目 11月22日		
スーパーバイザー名	1回目 中島 俊忠 2回目 中島 俊忠		
スーパーバイザー実施日時	1回目 9月27日 2回目 11月8日		

☆ 認定者が行うペアプロの様子及びスーパーバイザーから認定者への助言内容等について。

プログラムの進行上の、保護者へのアドバイス、介入のレベルについての指導

☆ SVを通して把握された今後のSV体制の在り方について。

事前のプログラム台本のチェックなど必要では、今回は大丈夫だったが、あまりに指導にのってこない方に対しては、実施したという認定を了承しないなどの措置もとれるのだろうか。ある程度グループが効かせられればと思います。

スーパービジョン(SV)ご利用に関する報告書

お名前	山浦 悠子	資格認定番号	
ご所属	佐賀県西部発達障害者支援センター 藤野	研修型ペアプロ開催地	佐賀県鹿島市 4326番地1
研修型ペアプロ実施日程	1回目 9月13日 2回目 9月27日 3回目 10月11日 4回目 10月25日 5回目 11月8日 6回目 11月22日		
スーパーバイザー名	1回目 中島 俊忠 先生 2回目 中島 俊忠 先生		
スーパーバイザー実施日時	1回目 9月27日 2回目 11月8日		

☆ ペアプロ(研修型講師を含む)のメインファシリテーターを担当して生じた疑問点、地域の特徴や地元の実情から生じる難しさ・必要となる配慮などについて以下にお書きください。

昨年度から3地区で実施しているが、参加者の個性によってペアワークの進み方や全体の雰囲気異なるので、予定していた進行通りにはいかないところが難しい。また、参加者の反応への対応やストレス度の観察力などファシリテーターとしての経験を積むほどに奥が深いと思う。

子育てについて、相談や研修会等への参加経験のある参加者がいると、前向きな発言やペアワークが活発で雰囲気が良くなるが、未経験の保護者でもワークを通して発言するので入りやすいように感じる。

県として県内の5福祉圏域で家族教室の一環としてペアレントプログラムを実施することになっており、募集チラシを保健福祉課等に配布したが、保健福祉課からの紹介は少なく個別の紹介や口コミで集まった方が多かった。

・3回目の『同じカテゴリーを見つける』ワークの時に、自分のカテゴリーを表にした方が分かりやすいと考えて、表を作成し使った。それにより、『自分のいいところ』や『努力しているところ』のカテゴリーが把握しやすく自己肯定感が高まるように進捗できたように思う。

・ギリギリセーフ行動を理解するためのワークシートも作成して使用した。

☆ スーパーバイザーから得た助言を以下にお書きください。

・時間は一応1時間を目安にするようになっているが、その場の雰囲気が良好な場合は多少伸びても良い。
・マニュアル通りに進行することを意識しすぎないように。1回遅らせるなど、参加者の理解具合や思いに沿って進めたい。

・参加者に QIDS-SR-1 現在の心身の状態を知るために1を1回目と最終回に取ると良い。また、その数値が高いほどストレス度が高いので、ペアリングの相性を考えて設定する。

・参加者が、「いいところ」や「努力しているところ」により目が行くように肯定的な発言をする。

・ファシリテーターとして進行シナリオを作成すると、進め方を客観視できて良い。また、話す自分のエピソードもシナリオに盛り込んでいると、その効果やエピソードの選択の良しあしを検証できる。

・いい雰囲気で会が進んでいるので、自信をもっていい。

スーパーバイザーより

スーパービジョン(SV)実施報告書

お名前	村山 恭朗	資格認定番号	
ご所属	神戸学院大学	研修型ペアプロ開催地	東京都杉並区
研修型ペアプロ実施日程	1回目 2019/9/7	2回目 2019/9/28	3回目 2019/10/5
	4回目 2019/10/19	5回目 2019/11/2	6回目 2019/11/9
スーパーバイザー名	1回目 村山 恭朗	2回目 村山 恭朗	
スーパーバイザー実施日時	1回目 2019年9月30日 18:00~19:30	2回目 2019年10月19日 12:30~14:00	

☆ 認定者が行うペアプロの様子及びスーパーバイザーから認定者への助言内容等について。

1回目 SV (日時: 2019年9月30日 18:00~19:30, 参加者: 守屋明徳, 小川麻里子, 坂本清美) 録画されたペアプロ1回目を観ながら, SVを実施した。 SV内容: ①参加する支援者に対する教育指導, ②各回の終了後に行われる次の参加者のペア決めのある方について, ③1回目の導入部の説明のあり方について, ④参加されている父親への配慮について, ⑤ペアプロ各回と全体の関連について
2回目 SV(日時: 2019年10月19日 12:30~14:00, 参加者: 守屋明徳, 小川麻里子, 淺野智恵, 坂本清美) 第4回目のペアレントプログラムおよび支援者同士のシェアリングを観察した後, SVを実施した。 SV内容: ①「キリギリセーブ行動」の説明, ②ペアワークのあり方に関しても(参加する支援者のペアワークの促進の仕方, 支援者の参加者に対する関わり方について), ③参加者への動機づけに関して(初回および2回目での, ペアレントプログラムの目的の伝え方), ④地域における支援者養成のあり方について

☆ SVを通して把握された今後のSV体制の在り方について。

スーパービジョン(SV)ご利用に関する報告書

お名前	守屋 明徳	資格認定番号	
ご所属	研修型ペアプロ開催地	杉並区	
研修型ペアプロ実施日程	1回目 2019/9/7	2回目 2019/9/28	3回目 2019/10/5
	4回目 2019/10/19	5回目 2019/11/2	6回目 2019/11/9
スーパーバイザー名	1回目 村山 恭朗先生	2回目 村山 恭朗先生	
スーパーバイザー実施日時	1回目 2019年9月30日 18:00	2回目 2019年10月19日 12:30	

☆ ペアプロ(研修型講師を含む)のメインファシリテーターを担当して生じた疑問点、地域の特徴や地元の実情から生じる難しさ・必要となる配慮などについて以下にお書きください。

<ul style="list-style-type: none"> ・支援者に伝えるべきことについて、回を進めるごとに過不足に気付くことが多く、研修型の講師として、ペアプロの枠組みや質を担保することができているかどうか、常に不安があった。そのため、SVの機会は大変ありがたかった。 ・地域や応募者の傾向による差かどうかは不明だが、問題解決を優先しがちな保護者もおり、「できていること」と「できないことをやらせること」に話題が及ぶことがあった。 ・支援者自身がいづれ講師となるつもりで参加するよう伝えてはいたが、支援者によっては、「自分で実施するのは自信がない」等の感想を残していた。今後、他のペアプロを見学する機会を設けるなど、工夫が必要だと感じた。

☆ スーパーバイザーから得た助言を以下にお書きください。

<ul style="list-style-type: none"> ◆保護者へのかかわりについて <ul style="list-style-type: none"> ・特に1回目については、現状把握とペアワークを、楽しく、主体的にできるよう動機付けを行うことに重点を置くことが多い。補講を受ける形になった場合でも、ペアワークの予行演習をするような感覚。その分、全体のおさいを丁寧に行うこともある。 ・参加者が多い場合には、すべてを全員に発表してもらおうではなく、子ども編だけに、サブリーダーが良いい共有できているペアを選ぶ、といった工夫で時間を短縮できる。 ◆支援者への研修について <ul style="list-style-type: none"> ・各回の振り返りでは、自分たちが今後ペアプロを回していくことを見据えて、ペアの組み合わせなどについて意見を求めると、チームとして全員で取り組む意識が生まれやすい。 ・ペアワークがペアプロの心臓であり、先生になりすぎない、教え込みすぎないように、支援者に伝えていくことが重要。ただ、支援者のバックグラウンドによっては難しい場合もある。うまく距離をとることができた支援者を具体的に賞賛するなどの工夫が必要になることもある。 ・講師の個性に依存しないように、貼り出しをうまく使うなど、支援者が自分でもできることを見つけられるようにすることも大切。また講師と全く同じやり方でなくともよいことを伝えるのもよい。 ・ペアプロの考え方や支援者に望まれるかかわりを1回目に一気に伝えるのが難しいならば、事前研修会を開催する方法もある。
--

スーパーバイザーより

スーパービジョン(SV)実施報告書

お名前	中島 俊昭	資格認定番号	
ご所属	佐賀大学	研修型へアプロ開催地	佐賀県唐津市
研修型へアプロ実施日程	1回目 9月17日 2回目 10月1日 3回目 10月15日 4回目 11月5日 5回目 11月19日 6回目 12月3日		
スーパーバイザー名	2回目 中島 俊昭 3回目 中島 俊昭		
スーパーバイザー実施日時	2回目 10月1日 3回目 10月15日		

☆ 認定者が行うへアプロの様子及びスーパーバイザーから認定者への助言内容等について。

プログラムの進行上の、保護者へのアドバイス、介入のレベルについての指導。

☆ SVを通して把握された今後のSV体制の在り方について。

事前のプログラム台本のチェックなど必要では、今回は大丈夫だったが、あまりに指導にのってこない方に対しては、実施したという認定を了承しないなどの措置もとれるのだろうか。ある程度クリップが効かせられればと思います。

スーパービジョン(SV)ご利用に関する報告書

お名前	篠崎亨子	資格認定番号	
ご所属	佐賀県西部発達障害者支援センター 高田 浩空	研修型へアプロ開催地	佐賀県唐津市東城内1番3号
研修型へアプロ実施日程	1回目 9月17日 2回目 10月1日 3回目 10月15日 4回目 11月5日 5回目 11月19日 6回目 12月3日		
スーパーバイザー名	2回目 中島 俊昭 先生 3回目 中島 俊昭 先生		
スーパーバイザー実施日時	2回目 10月1日 3回目 10月15日		

☆ へアプロ(研修型講師を寄与)のメインアシリテーターを担当して生じた疑問点、地域の特徴や地元の実情から生じる難しさ・必要となる配慮などについて以下にお書きください。

昨年度から3地区で実施しているが、参加者の個性によってへアワークの進み方や全体の雰囲気異なるので、予定していた進行通りにはいかないところが難しい。また、参加者の反応への対応やストレス度の観察力などファシリテーターとしての経験を積み重ねていく必要があると思う。

子育てについて、相談や研修会等への参加経験のある参加者がいると、前向きな発言やへアワークが活発で雰囲気が良くなるが、未経験の保護者でもワークを通して発言するので入りやすいように感じる。

県として県内の5福祉圏域で家族教室の一環としてへアレントプログラムを実施することになっており、募集チラシを保健福祉課等に配布したが、保健福祉課からの紹介は少なく個別の紹介や口コミで集まった方が多かった。

・3回目的『同じカテゴリーを見つければいい』ワークの時に、自分のカテゴリーを表にした方が分かりやすいと考えて、表を作成した。それにより、「自分のいいところ」や「努力しているところ」のカテゴリーが把握しやすく自己肯定感が高まるように進んでいくように思う。

・ギリギリセーフ行動を理解するためのワークシートも作成して使用した。

☆ スーパーバイザーから得た助言を以下にお書きください。

・時間は一応1時間を目安にするようになっているが、その場の雰囲気が良好な場合は多少伸びても良い。
・マニュアル通りに進めることを意識しすぎないように。1回遅らせるなど、参加者の理解具合や思いに沿って進めていい。

・参加者に QIDSRR-現在の心身の状態を知るために一を1回目と最終回に取るが良い。また、その数値が高いほどストレス度が高いので、へアリングの指性を考えて設定する。

・参加者が、「いいところ」や「努力しているところ」により目が行くように肯定的な発言をする。

・ファシリテーターとして進行シナリオを作成すると、進め方を客観視できて良い。また、話す自分のエピソードもシナリオに盛り込んでいくと、その効果やエピソードの選択の良しあしが検証できる。

・いい雰囲気でも会が進んでいくので、自信をもつていい。

・選んできた人も入りやすい雰囲気がある。

・たとえ話でのタイムミングでどのようなことを言うか、ポジティブな例で気分を上げていきお母さんたちをリードすることが大切。

・一つのエピソードを掘り下げすぎるので、同じことを言って終わりで、次に進む方がよい。

スーパーバイザーより

スーパーバイジョン(SV)実施報告書

お名前	高柳 伸哉	資格認定番号	研修型ヘアプロ開催地	一宮市
ご所属	愛知県立大学		研修型ヘアプロ開催地	一宮市
研修型ヘアプロ実施日程	1回目 12月6日 2回目 12月20日 3回目 1月10日 4回目 1月24日	5回目 2月7日 6回目 2月21日		
スーパーバイザー名	1回目 高柳 伸哉 2回目 高柳 伸哉			
スーパーバイザー実施日時	1回目 2019年12月20日 2回目 2020年1月24日			

☆ 認定者が行うヘアプロの様子及びスーパーバイザーから認定者への助言内容等について。

- ・前年度と同じ地域・担当者へのSVを実施したが、2018年度は日程の都合からプログラムに参加することはできず、支援者からの情報のみでプログラム進行に関する助言を行った。今回は、プログラムの2回目・4回目に参加することが可能になったため、実際のプログラムを見ただ上でSVを行うことができた。
- ・参加者の特徴にもよるものと思われるが、プログラム開始前の会話などの雰囲気作りや、託児体制が充実していること、普段から地域の支援センターで顔合わせするスタッフ・参加者もいることなどから、とてなごやかでリラクゼーションしやすい関係性・会場づくりがなされているように感じられた。
- ・SVでは、主にプログラムの内容における主要なポイントや伝え方のコツの確認、次回や今後のプログラムの内容を踏まえた参加者の現状把握への支援の仕方などを扱った。

☆ SVを通して把握された今後のSV体制の在り方について。

- ・実際の会場や保護者を見ることができなかった前回と比較して、会場の様子や託児体制などの物理的環境やスタッフの人数、参加者との関わり方、プログラム前後の様子など、具体的な実態を踏まえたスーパーバイズをすることができた。特に、参加者との関わりでは、プログラム中にはなごやかなながらも講義やワークを的確に進め、真面目すぎるほどの取り組みがうかがえる一方で、プログラム前後では最近の子どもや家庭の様子、地域サービスの話など参加者とスタッフが親しもうに話す場面が多々みられた。
- ・一方で、プログラム後の振り返りの時間が限られていることから、スーパーバイザーとしては要点を端的に伝えることのみで終わり、疑問点などを掘り下げることが難しかった。今回の一宮市のヘアプロ自体は上記のように参加者の特徴やスタッフの関わりからスムーズに進められていたことで掘り下げるほどのこともなかったが、困難事例などが出てきた場合のSV体制としてはどのような形が良いのかとも考えた。
- ・例えば、1回目のSVでは実際のプログラムをみて、2回目のSVで必要に応じて特定の課題について集中的にSVするという形も可能かもしれないが、日程調整を柔軟にするという新たな課題も生まれる。各地域でSVが可能な人材が増えると、より柔軟な支援が可能となることが期待される。

スーパーバイジョン(SV)ご利用に関する報告書

お名前	井川 佳子	資格認定番号	研修型ヘアプロ開催地	一宮市
ご所属	一宮市中央子育て支援センター		研修型ヘアプロ開催地	一宮市
研修型ヘアプロ実施日程	1回目 12月6日 2回目 12月20日 3回目 1月10日 4回目 1月24日	5回目 2月7日 6回目 2月21日		
スーパーバイザー名	1回目 高柳 伸哉 2回目 高柳 伸哉			
スーパーバイザー実施日時	1回目 R元.12.20 2回目 R2.1.24			

☆ ヘアプロ(研修型講師を含む)のメインファシリテーターを担当して生じた疑問点、地域の特徴や地元の実情から生じる難しさ・必要となる配慮などについて以下にお書きください。

- ・2・4回の中で母親に伝えるべき一番のポイントについて知りたい。
- ・欠席した人をフォローする時間として、改めて別の日を設ける事が難しく、当日早めに来てもらいたいフォローしたが、4・5回目はそれぞれは時間が足りず講座をうけながらフォローしたため、ヘアワークがなかなかできない状態であった、他ではどのようなようにされているのか。
- ・5回目の「癒める」を理解してもらうことが難しかった。特に4回目でギリギリサーブをほとんど見つけられた人が混乱している様子であった。

☆ スーパーバイザーから得た助言を以下にお書きください。

- ・2 回目は「行動で書く」という事がポイント。ヘアワークによって自分のいいところ、努力してるところを相手に見つけてもらえるといい。自分では見つけにくい事も見つけてもらえる。
- ・4 回目は困ったところでは24時間365日ずっとではないことに気がついてもらい、困ったところを具体的にしていく。困ったところは残っている、それも含めて全体をみていく。心配は当たり前、足し算の見方をし、ほめる事を増やせるといい。
- ・ギリギリサーブは「格上げ」「移動」ではなく「書き加える」と伝えると「困ったところ」はそのまま残していく。

スーパーバイザーより

スーパービジョン(SV)実施報告書

お名前	村山 恭朗	資格認定番号	石川県小松市
ご所属	神戸学院大学	研修型ヘアプロ開催地	石川県小松市
研修型ヘアプロ実施日程	1回目 10/3 2回目 10/17 3回目 10/31 4回目 11/14 5回目 11/28 6回目 12/12		
スーパーバイザー名	1回目 村山 恭朗 2回目 村山 恭朗		
スーパーバイザー実施日時	1回目 2019年10月17日15:30~16:45 2回目 2019年11月14日15:30~16:45		

☆ 認定者が行うヘアプロの様子及びスーパーバイザーから認定者への助言内容等について。

・1回目 SV (日時: 2019年10月17日15:30~, 参加者: 根石佐恵子他, 小松市発達支援センタースタッフ、職員4名)

… 第2回目のベアレント・プログラムを観察した後、SVを実施した。
SV内容: ①ベアワーク時間の確保の工夫について、②各回の終了後に行われる次の参加者のベア決めのあるり方について、③研修型ベアレント・プログラムにおける支援者に対する説明のあり方について、④参加されている父親への配慮について、⑤参加者におけるプログラム内容の理解を促進する挿話の重要性について

・2回目 SV (日時: 2019年11月14日15:30~, 参加者: 根石佐恵子他, 小松市発達支援センタースタッフ、職員4名)

… 第4回目のベアレント・プログラムを観察した後、SVを実施した。
SV内容: ①キリギリサービス行動の説明について、②キリギリサービス行動の意義について、③ベアワークのあり方について(支援者と参加者が1対1になることで、ベアワークが抑制される影響)、④説明の際の情報量と参加者の理解度について(情報量が多すぎる場合には、参加者の理解が低下する恐れがあるため、情報量の統制を行うことはより効果的な説明になる)

☆ SVを通して把握された今後のSV体制の在り方について。

スーパービジョン(SV)ご利用に関する報告書

お名前	根石 佐恵子	資格認定番号	石川県小松市
ご所属	小松市発達支援センター	研修型ヘアプロ開催地	石川県小松市
研修型ヘアプロ実施日程	1回目 10/3 2回目 10/17 3回目 10/31 4回目 11/14 5回目 11/28 6回目 12/12		
スーパーバイザー名	1回目 村山 恭朗 先生 2回目 村山 恭朗 先生		
スーパーバイザー実施日時	1回目 10/17 2回目 11/14		

☆ ヘアプロ(研修型講師を含む)のメインファシリテーターを担当して生じた疑問点、地域の特徴や地元の実情から生じる難しさ・必要となる配慮などについて以下にお書きください。

今回の講座では、「ベアレント」と言う事に着目され、ご両親で参加して下さった方が一組ありました。ワークでヘアを組む際は、できるだけ他の保護者の方と結びようにしましたが、5回目の「キリギリサービスを極める」のワークでは、お二人からのお申し出もあり、ご両親でヘアを組んでいただきました。ご両親で参加というのは初めてのケースでしたが、特に他の参加者の方との違和感もなく、和やかにワークを進めることができました。今回のお父さんは、お仕事の都合もつきやすく、参加しやすかったようで、6回全部参加していただき、ご両親でいるお子さんのことで気づくことができたり、家庭でお話もできたようで、共感できることも多かったようです。また、お父さんは、他の参加者がお母さんばかりで緊張されたようです。このようにまた、今回、参加者のお子さんも念頭に置きながら、ワークを実施できると良いと思います。また、保護者さんとの関係性における配慮の中で、途中で研修を辞退されることがありました。今後は、申し込みの際に参加者の方のお子さんの通われている園や学校を確認し、支援者と申し合わせをしておくことも必要だと感じました。

☆ スーパーバイザーから得た助言を以下にお書きください。

メインファシリテーターの根石と、研修に参加した支援者にもご助言いただきました。

<1回目>

ワークショップのあり方や、支援者の姿勢や関わり方について

・ベアはできるだけ全員と組めると良いが、相性や相手の方への話しかけ方なども考慮して、遠慮なく話しができるようベアを組んでいくことも大切。支援者も面談せず、いろいろな支援者が関わるとよい。

・ヘアワークでは、複数の支援者がヘアに入る場合、参加者と支援者が一対一で話しこむことのほかに、あくまでヘア同士で話を共有でき会話が増えるように、言葉かけや支援を心がけることが大切。

・ヘアワークの途中でも、参加者からの良い気づきなどがあれば、積極的に全体に紹介することで、それを参考に、更にワークを深めることもできる。

<2回目>

ワークショップの中での具体的な提示について

・既存の教材も、全部提示せずに参加者から意見を求めたりすることで、より印象付けたり気づきを促したりすることができるため、具体的に見える形で効果的に使うことで理解を深められる。

スーパーバイザーより

スーパービジョン(SV)実施報告書

お名前	宮地 菜穂子		資格認定番号			
ご所属	NPO 法人アスベ・エルデの会		研修型ペアアプロ開催地	愛知県岡崎市		
研修型ペアアプロ	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
実施日程	9/18	10/9	10/23	11/13	11/27	12/11
スーパーバイザー名	1回目 宮地 菜穂子		2回目			
スーパーバイザー実施日時	1回目 2019年11月15日		2回目			

☆ 認定者が行うペアアプロの様子及びスーパーバイザーから認定者への助言内容等について。

- ・ 今回の里親対象ペアアプロの進行には、既に経験のある児童心理司の同席や、複数の支援者らの協力もあり、初めてメインファシリテーターを務める際に、大きな力になっていました。
マニュアルに記載していない、具体的な事例を適宜挿入しつつ、伝えたい内容を分かりやすく説明していくためには、やはり場数を踏む（経験する）ことが必要であることもお伝えしました。
事前に、いくつか具体例を考えて、メモしておくなどの準備が必要でしょう。
- ・ プログラム内容が同じであってもグループメンバーの構成によって、支援者が直面する課題は異なります。また、BDI-IIによる参加者の事前チェックを行いながら、丁寧にペアを設定していくものの、参加者の相性もあり、全ての参加者が話しやすい環境調整を柔軟にしつつ、ペアに変化を加えるには、工夫も必要となります。研修型ペアアプロで実施できる場合には、研修として参加している支援者にもペアのやり取りに関する情報提供をしていただき、複数の目でプログラム中の保護者の様子をアセスメントしながら進められるといいでしょう。

☆ SVを通して把握された今後のSV体制の在り方について。

- ・ SVの内容は、実施者によって様々ですが、初めてメインファシリテーターを担当する際にぶつかる壁はある程度、共通する場面も多い印象です。それらに関しては、今後マニュアル内容を補足する形で進行の手立てや助言事例などをまとめて提示できると良いだろうと思われれます。
- ・ SVを提供する体制に関しては、現在弊会としても、各地での実践の在り方をまとめて検討しているところですが、できるだけ身近な地域の大学が発達支援を担う機関が中心となって進めていけるようにしていきたいことが望まれます。また、現地派遣型だけでなく、メールや電話など、SNSを活用して、困った時に気軽にできる窓口の設置も課題として挙げられます。
- ・ 里親対象ペアアプロについては、児童相談センターや里親支援機関など、社会関係機関が連携しながら、より個人情報が守られる安心した環境の中で提供される必要があります。さらに里親特有の課題も絡むため、社会的養護に精通した支援者もSVに協力できるよう、全国的なネットワークを構築することも望まれます。

Supported by  THE NIPPON FOUNDATION

スーパービジョン(SV)ご利用に関する報告書

お名前	西川 夏帆		資格認定番号			
ご所属	西三河児童・障害者相談センター		研修型ペアアプロ開催地	愛知県西三河総合庁舎		
研修型ペアアプロ	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
実施日程	9/18	10/9	10/23	11/13	11/27	12/11
スーパーバイザー名	1回目 宮地 菜穂子さん		2回目			
スーパーバイザー実施日時	1回目 R1.11.15 15:00~16:00		2回目			

☆ ペアアプロ(研修型講師を含む)のメインファシリテーターを担当して生じた疑問点、地域の特徴や地元の実情から生じる難しさ・必要となる配慮などについて以下にお書きください。

- ・ 内容はマニュアルに沿って進めていくことができますが、司会者として参加者の発表や発言に上手く返すことが難しいと感じます。
- ・ 4回目・5回目で内容がかなり難しくなると感じました。そのあたりから特に参加者の理解度に差が出るように思います。
- ・ デンジャラス・○○の「タスク」というのが、発達などの課題として捉えられる方もいるようです。確かにタスクという言葉に普段あまりなじみがないこともあってわかりにくいかも、と思いましたが、「何を」というところを強調したほうがわかりやすい方が多いのかなという印象です。

☆ スーパーバイザーから得た助言を以下にお書きください。

- ・ 今後の改定で事例集のようなものができると伺いました。経験が少なく、参加者に提示できるものが少ない身としてはとてもありがたいです。
- ・ 何度か実施するうちにプログラムを自分のものにしていくことでファシリテーター側もうまく実施できるようになっていくと言っていました。

Supported by  THE NIPPON FOUNDATION

スーパーバイザーより

スーパーバイジョン(SV)実施報告書

お名前	高柳 伸哉	資格認定番号			
ご所属	愛知県立大学	研修型ヘアプロ開催地	碧南市		
研修型ヘアプロ実施日程	1回目 2回目 3回目 4回目 5回目 6回目				
スーパーバイザー名	1回目 高柳 伸哉 2回目 高柳 伸哉				
スーパーバイザー実施日時	1回目 2019年10月28日 2回目 2019年12月5日				

☆ 認定者が行うヘアプロの様子及びスーパーバイザーから認定者への助言内容等について。

- ・日程上の都合からベアレント・プログラムへの参加が困難であったため、開催地の講師・スタッフを対象としたスーパーバイズを行った。当日は、プログラム参加者の現状把握表や活動記録などの資料を参照しながら、プログラム実施上の工夫や課題について検討した。
- ・碧南市ではすでにベアレント・プログラムを継続的に実施していることから、プログラムの内容や進行といった基礎的な内容よりも、気になる参加者への対応やワークにおける具体的な関わり方についての助言を求められることが主体であった。
- ・一方で、少ない情報から参加者の特徴・背景を把握できることは難しく、特に今回は地域の支援者からの情報のみであったことから、相談対象となった特定の参加者に関して十分なアセスメントができるわけではなかったため、慎重な伝達をこころがけた。基本的にはプログラムにおける参加者への関わり方の基本と、ヘアプロのできるこの限界を確認した上で、地域における事後フォローや相談体制などのサービスへとつなげていくことの必要性を、地域・機関の実情に合わせて検討した。

☆ SVを通して把握された今後のSV体制の在り方について。

- ・今回は地域的にもヘアプロの実施とSVに慣れた体制(SVを複数回受けた地域)であったこと、前年度に報告者自身が実際のプログラムに参加しながらSVをした経験もあったことから、支援者からの情報のみでも具体的なイメージを共有しやすかったという利点があった。
- ・上記のような状況で、プログラムの進行に関する面は概ね把握されているため、特定の参加者に焦点を当てたSVへのニーズが主体となったものの、SVの方向性としてはやや例外的であったものと思われる。助言内容でも記載したように、限られた情報から特定の参加者を正しくアセスメントすることは非常に困難であり、ともすればスーパーバイザーの伝えられた情報が参加者の実態を歪めてしまいうりスクもある。今回はそうした可能性も伝えながら実際には様々な可能性を想定した支援が有効であることを強調したが、あくまでベアレント・プログラムを実施する上での助言であることは、今後のSVでも確認していきたい。

スーパーバイジョン(SV)ご利用に関する報告書

お名前	鈴木信恵	資格認定番号			
ご所属	碧南市役所福祉課発達支援係	研修型ヘアプロ開催地	碧南市		
研修型ヘアプロ実施日程	1回目 10/9 2回目 10/23 3回目 11/13 4回目 11/27 5回目 12/11 6回目 12/18				
スーパーバイザー名	1回目 高柳 伸哉先生 2回目 高柳 伸哉先生				
スーパーバイザー実施日時	1回目 10月28日 2回目 12月5日				

☆ ヘアプロ(研修型講師を含む)のメインアシリテーターを担当して生じた疑問点、地域の特徴や地元の実情から生じる難しさ・必要となる配慮などについて以下にお書きください。

- ・ほとんどの参加者が託児を利用されるが、託児のスタッフ確保が難しい。
- ・参加していただいた人には高評価を得ているが、参加者が定員(10名)を割っているため、事業のPR方法が課題となる。今年度、市の広報にて周知を行ったが、申込者は親子教室や子育て支援センターからの紹介がほとんどであった。
- ・研修型ヘアプロで保育園、幼稚園の先生が毎年参加してくれているため、保護者も支援者が同様の考え方を支援者も知ってくれているという安心感につながっていると思う。

☆ スーパーバイザーから得た助言を以下にお書きください。

- ヘアプロで話をする際に、話が広がらない人に対する工夫(対応)
 - ・具体的にどんなことをしているの聞き、子どもへの働きかけを引き出して話を広げる
 - ・お母さんを主人公にして、頑張っている所を見つけていけるようにしていく。
 - ・ほめられて嬉しそうにされているので、支援者や周りの参加者からほめてもらう。
 - ・心を安定させてから子どもにも繋げていく。
- 抑うつ傾向の人の対応
 - ・母親ができていることを、より具体化していくとよい。自分自身ができていることが分らないと、子どもができている事に気付けない。
- 子どもの年齢発達にあった適切な場合、母の気持ちを汲みつつ気付けさせるにはどうしたらよいか(対応例)
 - ・「〇歳からやると、お母さんも大変だけど、お母さんも大変じゃない？」などと伝える。
 - ・一般的な発達の場合は…、と一般論で伝えて、明らかかなことは伝えられないようなニュアンスで伝える。
 - ・「頑張っているだけでも、すごいことだよね」とみとめながら、求めていることが「私だけかな」と気付けさせていくのもよい。そのために、周囲が驚いたり、「もうやっっているの?」という反応をするのもよい。

以上は主なものです。他にもたくさんアドバイスをいただきました大変参考になりました。

スーパーバイザーより

スーパーバイジョン(SV)実施報告書

お名前	原田 新	資格認定番号				
ご所属	岡山大学	研修型ヘアプロ開催地	岡山市立岡西公民館			
研修型ヘアプロ実施日程	1回目 2019/12/10	2回目 2019/12/23	3回目 2020/1/7	4回目 2020/1/28	5回目 2020/2/14	6回目 2020/2/27
スーパーバイザー名	1回目 原田 新		2回目 原田 新			
スーパーバイザー実施日時	1回目 令和2年1月7日		2回目 令和2年1月28日			

☆ 認定者が行うヘアプロの様子及びスーパーバイザーから認定者への助言内容等について。

【令和2年1月7日 (3回目)】
 3回目開始前に、今回の趣旨(カテゴリー分けで視覚的に整理・分類することによって、自分が特に何に頑張っていて、何を課題に思っているのか、また子どものどの部分を気にしているか)を気にしていないのか、客観的に見えずやくなること等)を説明した。また終了後には、今回の参加者の様子やヘアの組み合わせの良さについて共有すると共に、支援スタッフとして参加して難しかったこと等を話してもらった上で、改めて3回目の主旨について説明した。さらには、次回(4回目)の予習として、ギリギリセーフの考え方について説明した後、スタッフが自身の現状把握表に記入している困ったところに対するギリギリセーフ行動について考えてもらった。
 【令和2年1月28日 (4回目)】
 4回目開始前に、改めてギリギリセーフ行動の説明(困ったところがあっても、日常生活が破綻しない程度に行えている工夫や、ちよっとだけマジな代替行動とは何か、特に子どもにとっては、それが今できているスタートラインであること等)を行った上で、不明点についての質問を受け付けた。また終了後には、今回の感想や参加者の様子を共有した上で、今回の趣旨(デンジャラス〇〇の逆を考えること、ギリギリセーフ行動が見つけやすくなること等)を説明し、スタッフが自身のギリギリセーフ行動を改めて考えてもらった。

☆ SVを通して把握された今後のSV体制の在り方について。

今回は、原田が3回目と4回目に現地まで行って頂き、講師として参加者(保護者)にプログラムを行うと共に、支援スタッフへの研修を行いました。それ以外の1回目、2回目および5回目、6回目は現地の方が講師としてプログラムを行いました。今回、その現地の講師の方が初めてヘアプロ実施を行うということもあり、実際には1回目、2回目、5回目に前にも少し時間を取ってアドバイスをを行いました。現地の講師を行う方がある程度ヘアプロ実施に慣れた方であれば、それほど丁寧なスーパーバイジョンは必要無いのかもしれないが、初めもしくは経験の非常に少ない方が講師をされる場合は、通常の2回のスーパーバイジョンに加えて、もう少し手厚いフォロー体制があっても良いように感じました。

スーパーバイジョン(SV)ご利用に関する報告書

お名前	谷本 佐代子	資格認定番号				
ご所属	アリスの会	研修型ヘアプロ開催地	岡山市立岡西公民館			
研修型ヘアプロ実施日程	1回目 2019/12/10	2回目 2019/12/23	3回目 2020/1/7	4回目 2020/1/28	5回目 2020/2/14	6回目 2020/2/27
スーパーバイザー名	1回目 原田 新		2回目 原田 新			
スーパーバイザー実施日時	1回目		2回目			

☆ ヘアプロ(研修型講師を含む)のメインファシリテーターを担当して生じた疑問点、地域の特徴や地元の実情から生じる難しさ・必要となる配慮などについて以下にお書きください。

- ・公民活動を通じて顔見知りの方の参加が多く、普段から知っている人同士であるだけに、家庭の中の細かい事まで話しにくいのではと、心配しながらの進行だったが、それぞれの方が具体的な行動で書くことに積極的に取り組んでいただけだったので、杞憂に終わったように思った。今後も公民館を軸に参加者の募集していく中で同じ心配はあるように思った。
- ・祖母の参加、中学生の子供さんの保護者の方の参加など、小さい子供さんの保護者の方とのヘアワークがスムーズに進まないという実情があった。子供さんの年齢がある程度近いほうが話しやすいように思う。募集時に子どもさんの年齢がある程度絞った方がよかったですかと思うが、他の実施会場ではどのような傾向なのか？
- ・参加できない回のフォローを、次回のペアレント・プログラム前の時間に取ったが、場合によっては別日を設けたりして、参加者の都合に合わせてなら行った。すべての回の内容がきちんと積み重なっていく事が非常に大切だと気づかされた。また、きちんと回を追う事で、保護者の方自身の発見の喜びも大きくなるように思われた。

☆ スーパーバイザーから得た助言を以下にお書きください。

- ・6回を積み重ねる事の意義や大切さを伝え、2回目、3回目からプログラムが理解できてくるなどの先の見通しを与える事で、保護者だけでなく、支援者についても途中離脱することなく、6回のペアレント・プログラムをやり終える事が出来たと思う。6回を積み重ねる事の重要性をしっかりと伝えることについて、助言いただいたのが大きかった。
- ・子供の行動を叱るのではなく、その子の良さを見つけ誉めて育てることに、このプログラムの有用性を伝えていく。その子の子に合った誉め方や、誉めるのが苦手な人には子ども行動の実況中継をなど、ポイントになる点をしっかり伝えていくように、また、話し漏らした点や、更に詳細に例を示しながら話すことなど、進行内容に沿って丁寧に助言をしていただけたので、初めてのペアレント・プログラムの実施であったにも関わらず、慌てず落ちついて進める事が出来た。
- ・ウツ程度の高い低いや、ヘアワークの組み合わせなどについても助言を頂いたことで、保護者の方のヘアワークでのスムーズな会話を引き出し、プログラムの理解が進み、全ての保護者の方の満足して帰られた様子が心に残った。

2. 全国 12カ所程度の地域において、スーパーバイザーとして支援者を 12名程度育成する。

1) ペアレント・プログラム スーパーバイザー研修の実施

○日時：2019年8月24日（土）16:30～18:00（受付は16:15開始予定）

○場所：第1アメ横ビル4階 第3会議室

（名古屋市中区大須 3-30-86・地下鉄上前津駅下車 徒歩8分）

○対象者：ペアレント・プログラム実施資格認定者であり、既にペアレント・プログラムのスーパービジョン経験を有する方および、近々スーパービジョン実施の予定がある方等。

○参加費：無料

○備考：各地の実践の記録等をご持参いただき、ディスカッションを行った。

巻末資料 I 参照。

時間	2019年8月24日(土) @アメ横ビル会議室第3会議室	2019年8月25日(日) @名古屋企業福祉会館 小ホール	時間
		受付開始	9:30
		幼児期発達支援セミナー（有料） ～JASPERプログラム基礎研修～ （日本財団助成事業）	10:00
		講師：辻井先生 [NPO法人アスペ・エルデの会理事長] 黒田先生 [名古屋学芸大学教授]・浜田恵 [名古屋学芸大学講師]	12:30
		午後から参加者 受付開始	13:00
		ペアプロ全国交流会（無料） （日本財団助成事業） 前半： スーパービジョンについて 後半： 各地の取組みの共有 マニュアル改訂及び更新手続きについて他	13:30
			16:00
16:15	受付		
16:30	スーパーバイザー研修（無料） [すでにSVをされている先生方対象] （日本財団助成事業）		
18:00	講師：辻井先生 [NPO法人アスペ・エルデの会理事長]		

2-2 全国ペアレント・プログラム交流会の実施

(★地域における子育て支援のためのペアレント・プログラム全国交流会 2019★)

<全国交流会の様子>



(1) 日時：2019年8月25日(日) 13:30～16:00

(2) 場所：名古屋企業福祉会館 小ホール

(名古屋市中区大須2丁目19-36・地下鉄鶴舞線大須観音駅下車)

(3) 参加料：無料

(4) 参加者数：計75名

(5) アンケート結果

受付の際に、アンケート用紙を配布し、終了までに会場後ろに設置したボックスへ入れいただく形で回収を行った。その結果、42名より回答を得た。[巻末資料Ⅱ](#) 参照。

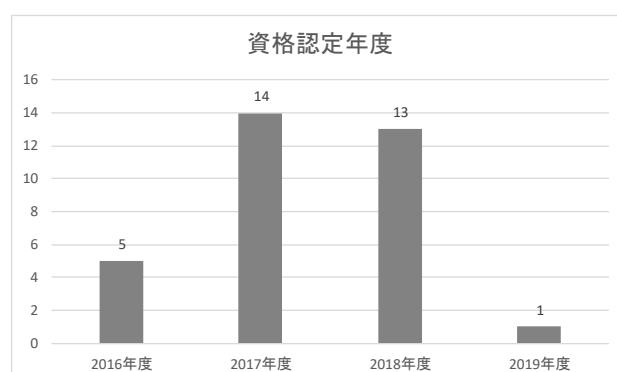
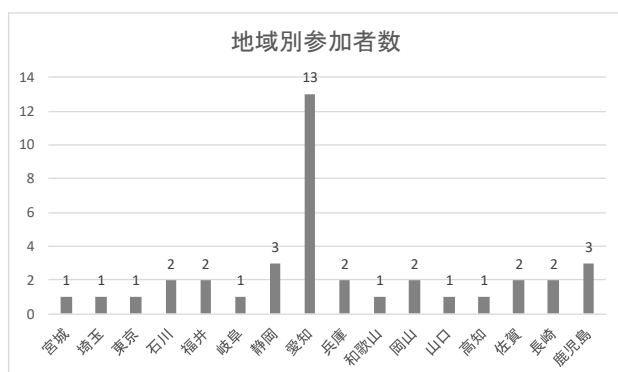
I. 参加者の属性

① 平均年齢：(48.93歳 / SD= 9.18)

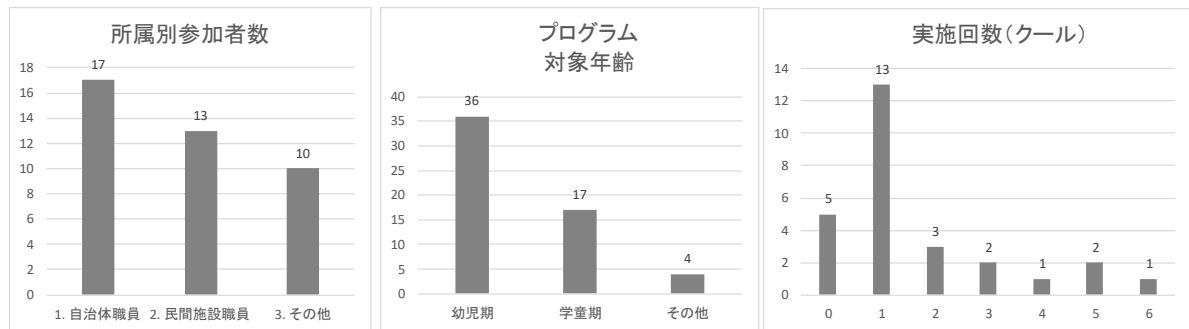
② 性別：(男= 5名 ・ 女= 37名)

③ 地域：本交流会開催地である愛知県からの参加者が最多であった。

④ 実施資格認定年度：2017年度認定者が最多、次いで2018年度認定者が多かった。



- ⑤ 所属：自治体職員が最多であった。
- ⑥ 実施したプログラムの対象年齢：幼児期及び学童期での設定も多かった（13名）。
- ⑦ メインファシリテーター実施回数：1クール目が最多、1クルールの内数回担当もあった。



(6) アンケート結果を踏まえたマニュアル改訂の際のポイント

… 2020年発行予定のペアレント・プログラムマニュアル改訂版を見据えて。

(1) プログラムの進行が難しいセッション
<ul style="list-style-type: none"> ・3回目のカテゴリー分け（カテゴリー名が浮かばない・カテゴリーがたくさん出すぎてしまう） ・4回目のギリギリセーフ（説明が難しい・支援者自身が考え方を落とし込むところが難しい・良い案を考えるのが難しい・見つけ出すのが難しい） ・時間が足りない。 ・行動を見ることが難しい保護者、ギリギリセーフを納得できない保護者、ASD特性を持った保護者など個別対応が必要な保護者への対応が難しい。
(2) プログラム実施にあたり、あったらいいと思われる資料
<ul style="list-style-type: none"> ・小ネタ集、エピソード集 ・ギリギリセーフ行動の例 ・「いつ・どこで・どのようにほめたら・どんな反応だったか」（宿題発表時使用）の提示カード ・参加者が手元で見れるプリント資料（内容は前で掲示しているもの）
(3) 地域の実情を踏まえ、「子育て支援にもっと活用しやすくなる」、或いは、「子育て中の母親達が参加しやすくなる」と感じるプログラムの改善点等
<ul style="list-style-type: none"> ・6回参加するのが難しい保護者も存在するため、回数を減らした短縮版があると良い。 ・書く宿題を減らすようにする。 ・託児スタッフの確保やリスク管理に苦慮するため、子どもを預かる施設で実施できると良い。 ・保育士や学校の先生にもペアプロについて知ってもらう。 ・自治体単位で広めていくためにも、自治体職員に対してペアプロの良さをさらに伝える。
(4) 今後、あったらいいと思う研修やサポート
<ul style="list-style-type: none"> ・SPACEとJASPERの実践研修 ・全国交流会のような、講義と実践発表が定期的にあるとありがたい。 ・6回+フォローアップ1回で実質7回で取り組みたい。

2-3 幼児期発達支援セミナー

- (1) 日時：2019年8月25日（日）10:00～12:30
- (2) 対象者：ペアレント・プログラム実施資格認定者
- (3) 場所：名古屋企業福祉会館 小ホール
(名古屋市中区大須2丁目19-36・地下鉄鶴舞線大須観音駅下車)
- (4) 参加費：3,500円（1名）
- (5) 参加者数：計75名



<内容>

支援者が、JASPERプログラムの概要と支援における有効性を理解することができるよう、黒田氏よりプログラム概要説明があった。

さらに、自治体の取組みとして事業展開していくために予算化を目指して地域で具体的な検討に入れるよう、辻井氏より説明があり、関係者間での情報共有が図られた。

その後、浜田氏よりSPACE（短い遊びとコミュニケーションの評価）のやり方と方法についてレクチャーを受け、参加者も実際にSPACEを付けてみるというワークショップを実施した。

3. 事業成果物

3-1 ペアレント・プログラム全国交流会及び幼児期発達支援セミナーの活動写真

2-2 及び 2-3 に 1 枚ずつ掲載した。(計 2 枚)

3-2 本事業に関する報告書 A4 版 34 ページ (本書)

本事業の計画、実施状況、スーパービジョンに関するバイザー及びバイジーの報告内容、全国交流会時に参加者に対して行ったアンケート内容、今後の課題と計画についてまとめた。特に、2020 年発行予定のペアレント・プログラムマニュアル改訂版を見据え、現プログラムの内容や進行に関して修正点や改良点に関しても提示した。

(連携協力団体及び全国の発達障害者支援センター等、関係機関へ送付)

3-3 全国ペアレント・プログラム実施資格認定者数 (2020 年 3 月 10 日現在)

合計 1,061 名

4. 全体の成果 及び 今後の課題・取り組みについて

弊会は 2016 年度より貴財団の助成の下で支援者資格認定も開始し、今年度までに全国で 1,000 名を超える支援者が実施資格認定証を取得した。本事業以外にも、今年度、弊会は各自治体より委託を受けて、認定資格申請が可能となる研修型ペアプロを複数個所において実施してきており、その受講者は数多く存在する。厚生労働省が推進しているように、ペアレント・プログラムは地域の家族支援のツールとして、順調に普及している現状にある。

SV 事業の開始が試みられ、ようやく実質的にスタートした段階にあり、今年度、SV の在り方に関する意見交換ができたことは、非常に有意義であった。

ただ、資格認定者へのサポートと各地域の実施体制構築には未だ課題として残っている。今後も、地域における研修型ペアレント・プログラムの実施をサポートしながら、引き続き支援者の資格認定と自治体との連携提案、支援者へのスーパービジョンを進めていかなければならない。行政職員の参加を積極的に促し自治体の中で継続的な保護者支援を行うと共に、首都圏と地方との実情の相違に対応できる柔軟なプログラムを目指して、マニュアル改訂も進めていく予定である。

日本財団助成事業 SV 研修記録

2019年8月24日16時30分開始

講師：辻井正次氏

報告者：高柳伸哉氏（愛知東邦大学）

村山恭朗氏（神戸学院大学）

野村昂樹氏（いわき明星大学）

(1) 挨拶

辻井氏より…

現時点において、弊会でスーパーバイザー資格の認定はしていない。研修会を実施して、SVを増やしていきましょうという建設的な提案です。研修用のプログラムは全6回で実施だが、より簡単で効果的且つ短期間で実施できるプログラムがあれば、その方がいいので、明日の全国交流会で意見交換できたらいいだろう。秋田や岩手など、まだペアプロを実施できていない地域も存在する。

マニュアルを詳しくするための改訂を来年実施予定である。マニュアルを淡々とやるのもいいが、経験の浅い（若い）方がやる時に実施の際の小ネタが必要なので、準備していきたい。

例えば大府市では、園長・園長補佐、主任等は実施できる体制が整っている。経験もあるので、小ネタもあって進められるが、経験の浅い（若い）方は、第1回目、第2回目で小ネタを話してあげないと円滑に進められないので、小ネタを募集していく。ウケた（うまく進められた）エリアも付けていく。（例：雪ネタなどは北部限定）。

平行して、保育園の送り迎えの迎の時に「10分間だけを活用して」など、「計30回実施」というスタイルでの進め方も提案する（明日）。次の展開として、考えていく予定である。

また、厚生労働科学研究で国レベルの発達障害支援の研修階層を創設していく予定である。座学ではなく具体的な技術で示せるようにしていく。プレポストで効果を確認した際に、出来ていること（ペアプロはBDIとPNPS）が重要である。エビデンスが実証できれば、成果が出る方より簡単なものにより簡単なものに置き換えていけばいい。第6回目では難しいから3回程度で…という意見もあるが、座学は情報提供が主流なので、実際、意味がない場合が多い。そうではなく、今後は徐々にエビデンスで効果が検証されている研修を実施し、平行して効果がある取り組みをしたかどうかを検証していくという枠組みに進んでいく予定である。（取り組んだ以上は何かしら、プレポストで効果測定していくことが大事。示せるような仕組みを作っていく。）

しばらくは研修型の基本形でペアプロを実施していく。さらに5年後はアプリ化を検討している。

今年度、大都市も取り組みを始めた（仙台市、名古屋市等）が、震災との兼ね合いで小さいプログラムを実施していくと、核になる人がいればできるが、地方の自治体のパワーが減っている。子どもが少ないところは、なかなか自治体だけでは頑張れない現状も把握されてきている。半径10キロ圏内に子育て友達がいないという地域もある。そうになると、アプリやゲームでつながって、ペアプロを実施するというスタイルもあっていい。現状把握表は入

力する形式になるだろうし、さらに5年後はそういった形態になっていなければ、このプログラムは生き残っていないだろう。

本当に「アプリだけで実施するところ」と、「メインとアプリで実施するところ」、「何回目かだけをオフ会を実施するところ」ということも考えていかなければならない。一部の田舎は少子化のスピードが速いという実感がある。ペアプロは、自治体と絡まないといけないというスタンスでこれまで実施してきたが、できる人がいないと続かないので、大都市は直営で行い、地方はより柔軟に実施できるような体制を整えていくことも重要である。

SVは、今までだいたい第2回目、第4回目で実施している。なぜそうなるのか？
…第2回目の宿題が出てこないと子どもの様子が分からないので、出てきたタイミングで支援ニーズがあるのかをようやく想定できるということである。

SVの主な内容としては、現状把握表が書けているかどうかについて以下の点に注目して説明を行う。

- 母の知的なゆっくりさ、或いはメンタルヘルスが欠けている影響で記入できなくなっているのか？
- どのような潜在的な問題があって、どれくらい動詞で書けているか？
- メンバーはどんな感じでどれだけ書けているか？
- マニュアル通りでは無理なら、どれくらい手助けしてやる必要があるのか？
- ペア組みや声かけをどうしていくか？ など。

あとは支援者からの心配、ご相談に応じて助言していく。

今後は、SV上の心配事等をQ&Aか何かにして提示してもいいかもしれない。

全国で最も早くからペアプロを実施している大府市では歴代の台本（ペアプロの進行に関する）が作ってあって、台本通りにやっていく。あまりに書けていない母がいると、自分版はやらせて子ども編は宿題にしまいましょうとか、子育て支援センターで補修を設定していくなど、そのような形で（母親が地域の支援者へ）相談する練習が（児童センターで）できていく形にしていけば、保護者が納得して、そのあと療育機関へつながりやすく、そういった方はそこで継続してサポートしていくことができる。

第4回目のところは、ある程度プログラムも進行し、ここまで出来てきたというところなので、そこで実は子どもがかなり大変だとかメンタルが酷いということが明確に把握できてくる。その時点で、最終的にこのセッションで、どこまでを目標（ゴール）として設定して進めていくかについて、助言を行う。今回は、できるところまでで終わっておいて、その後、児童発達支援のところで進めていただいてもいいし、初回参加のプログラムは分かるところまでで終わっておいて、2回目（再度プログラムに参加）にまた実施し、以前受けたプログラム内容を復習した上で進むとようやく内容を理解される保護者も実際に少なくない。

逆に、学歴が高いメンバーが集まってしまったということもあり得るので、そういった場合は、第5回目くらいでペアプロの内容なんかを盛り込んでもいいかもしれない。

(2) 実際にペアプロSVを実施してきたお二人からのご報告

- 高柳氏より… 愛知県内（一宮市2か所、碧南市1か所）におけるSVを踏まえて

●現地派遣型：プログラムに同席した上で、ペアプロ実施後にSVを行う場合

実際の様子が見ることができるので、小ネタや保護者の様子もわかる。ただ、スーパーバイザーも1時間プログラムに参加してから、SVを行うと、SV自体の時間が短くなってしまったり、プログラムの第2回目から突然スーパーバイザーが会場に同席すると、保護者としては「誰だ?」となってしまうたり、プログラムのメインファシリテーターが緊張してしまったりという、影響が若干あるかな?とも感じた。

●現地派遣型：プログラムには同席せずに、支援者等からの情報提供によるSVを行う場合

実際の様子が見られないので、すれ違いがあるかな?とも思うが、ファシリテーターを含む支援者の方の悩みに焦点を充てられるかなとも感じた。

<実際に出されたSVの質問例>

- ⇒
- ・ぎりぎりセーフってこんな風に認識していますけど、これで合ってますか?理解できているかな?
 - ・研修の受講経験が豊富な参加者(知的欲求が高い一方で偏りもある)からの質問への対応など
 - ・抑うつ・養育行動の質問紙に関する質問への対応の仕方。市販されている質問紙ですし、強制ではないということも助言してきた。

<プログラム観察で気づいた点>

- ・プログラム開始前の参加者とスタッフの関わり方
- ・ファシリテーターの進行の仕方。保護者への説明が適切か?という心配。
- ・ペアワークにおけるスタッフの促し方。ぐいぐいと説明したり助言してしまう支援者には、「お母さん方に任せましょう」と助言したり、逆にあまり声をかけられない方には、もう少しと助言したり。
(先生方のやり方でいいが、お母さんたちが分かっているかどうか把握しながら進めることが大切。)

・**辻井氏よりコメント…**

ペアプロは、母の認知を変容すること。なので、1個1個の相談には乗らない、扱わないということで徹底する必要がある。「相談は、プログラム中はプログラムをやる。それ以外は扱わない!」で徹底する。

母の認知が変わるということ、重視し、その後に、ペアトレへ進んでいってくださいということ。

こんな質問が出て困っている…という支援者も同様に対応すること。

・**村山氏より…** 石川県小松市におけるSVを踏まえて。

●現地派遣型：プログラムに同席した上で、ペアプロ実施後にSVを行う場合

どちらかというと、現状把握表の内容より、例えば、視覚障害をお持ちの母、なんでもか

んでもプログラムを受けたい母、旦那様からDVをうけて鬱の母といった、参加している母への対応に難しさを感じて相談を受けることが多かった。(具体的には、うつがドロップアウトしてしまいそう、なんでも受けたい母が話しすぎるのでペアワークをどう維持するかという相談。)

2回目前に少し打ち合わせしてから、実際に2回目の様子を見て、4回目～5回目の間で、ディンジャラスをどのように扱うかどうかを、母の理解ができるように進めていくための助言を求められた。

ペアワークを支える全体的な雰囲気大切なので、そちらをどう一定レベルの水準を保つかという点でSVをしていった。

- 野村氏より… 静岡県静岡市におけるSVを踏まえて。

●現地派遣型：プログラムに同席した上で、ペアプロ実施後にSVを行う場合

認定資格をもっていた3名が2回ずつ担当していたペアプロだったので、SVした際に、行動で具体的に描けないと、4回目の内容は難しいだろうということで、その部分についてのアドバイスを行った。

保護者の方へ教えなければならないという感じでとらえている方が多いので、行動で捉えることと、保護者のネットワークをつくること、発表したら拍手するなど、雰囲気づくりについてのアドバイス等をした。プレポストをとっていなかったもので、比較できるものをとっていただくといいだろうということで指摘した。

辻井氏よりコメント…

SVの資格を作った方がスーパービジョンをしやすいという現場の先生方の声があるようならば、それをお聞きしながら進めていきたいと思う。

参加者との意見交換記録

- S先生より…

奈良エリア担当。市町村が手を挙げてくれず、社会福祉法人で1度やったきりで、進んでいない。A親の会で1年に1回くらい実施している。広がりがないので、SVの資格を作っても、広げられない。行政の腰が重い。別のチャンネルで進めないと難しい。

- Mさんより…

岡山では行政がなかなか動いてくれないので、倉敷で親の会レベルで3回バージョンにして行った。倉敷で、公民館は動いてくれることになってきた。

- Oさんより…

大府市では長年やっているもので、今は、辻井先生にSVをしていただいている。2回、4回目に。今後は自分たちでやっていけるようになるといいなと。

⇒ 今、田原で模索しているお迎え時の 10 分間のショートバージョンをしてみるとか？
プログラムが出てきたところでみながら。

・Hさんより…

福井県越前市では、行政の方で実施している。保健師が 3 回くらいの簡易バージョンでやっていて、最近、3 年くらいかけて児童発達支援センターで全 6 回バージョンを実施している。今回、地域で支援者が育ったので、子育て支援センターを中心に地域で実施していきたい。認定こども園の幼稚部の母へはやっていけるかな？でも田舎なので、集まることも難しい。

・辻井氏よりコメント…

プログラムで何をしたいかなんだよね。認知を変えようと思うと、3 か月はかけて 6 回。あなたとお子さんの人生を変えるなら、この 6 回はしっかり受けてもらえるといいかな。虐待リスク回避が絡むとよりいいのに。児童発達支援センターだとその領域の母を取り込めないの。

・Y氏より…

札幌では子ども発達総合センター2 か所で 4~5 年前から母へ研修型で保健師と保育士等参加させる形で実施してきている。そこから子育て支援センターや市立の保育所でやれないかなと。でも行政が縦割なので、難しい。江別と室蘭市の方が研修で参加してきたり、北広島市へ研修講師として派遣したり。SV で遠いところまできていただかなくても出来るようにしたいなど。

・T氏より…

発達支援事業所 E 職員です。杉並区で 1 回実施させていただいた。10 名しかいない。私以外、皆さん心理士で、BDI ではなく他の効果測定をしたら、とても上がった。区の職員で事業所なので、ペアプロ止まりではなく、ペアトレの方も必要では？と。重度のお子さんに適応できるようにしていかなければならないのでは？

・辻井氏よりコメント…

上記を受けて→ 抑うつが改善し、認知の変容を比較的安易かつ難しくなく（簡単に）取り組めるのがペアプロである。T 氏の話では、個別で対応しているとのことだけれど、鬱度合いはどうか？個別の問題改善だけやっても実はお母さんの鬱は改善していないということがある。

これは、お子さんの問題をではなく本人の問題。ペアプロは認知の変容を扱うプログラムである。目的が違うので、心理士の皆さんには、そこを整理してもらいたい。

このプログラムは、10 名単位で簡単に改善できるのがいいところ。これはこれということで実施してしまった方が親御さんはわかりやすい。でもこれ（認知の変容）をしないで、ペアトレをすると、お母さんがきつくなってドロップアウトしてってしまう。

1 つのプログラムは限定した効果しか持たないものが多いので、心理の人の認知の整理も

しないといけない。親御さんの認知の変容をできるのが、ペアプロである。

・N氏より…

長崎は離島が多いので、どうしていくか。スカイプで計画しているがなかなか難しい。児童発達支援センターで勤めている。その母に去年から2回。メンタル複雑、プレポストをとって、母のメンタルがよくなった、2回目も受けてる母もいる。ただ、児童発達支援センターなので、法人内でも少しずつ実績つけて、効果を見せながらやっていかないといけないかなと。

・U氏より…

福井市、鯖江市、事業所にて6人のグループ3つくらいをやって、年度の後半はペアトレに流れていく。

1月1回のペースに落としてやっている。県の療育センターのおひざ元の事業所ということで、診断つきたてほやほやなので、ママ友ができてよかったとか、高機能の母が集まるので共有できたとか、そういった言葉をもらっている。行政とは難しく、事業所で細々とやっている。

・M氏より…

静岡県浜松市内、県や市の依頼をもとに、ペアプロを実施。支援者として、6回研修してから実際にやっていくのがハードルが高いとのことで、磐田市の有志で3名集まり、市から予算をもらって今回初めてやって、1~4回SVで参加させてもらった。実施後、こまかな質問が出てきたので、それらに対応。アドバイスしながら。今回初めて実施した先生方の自信にも繋がったので、今後は自分たちでやっていけるかな。

児童発達支援センター利用の保護者・支援者の知り合いもあって、その後の相談にもつながっていった。

・A氏より…

奄美大島にて平成26年度から開始している。辻井先生6回来てもらったり。田舎だが、辻井先生のやり方をすべて綺麗に沿うようにやっている。平成29年に障害支援行政の子ども未来課にペアプロをすることを明記してもらっている。一般公募は3~4か所実施している。専門家がない町、小児科がない町で、認定者を増やそうということで、80名くらい認定者が出た。3名くらいが実際にやってきたが、今年から私がやっとSVに回ることになった。人口2,000人くらいなので、保育所へ入るまでにみんな一旦受けたらいいねと。保健師がセンターに立ってプログラムを実施してくれることになった。小さな町だからこそ、専門家がいなくてもやれるように。色々なお母さんがいるなか、6回コースのアゲアゲをどうキープしていくか、という点について相談してやっています。

2019年度 公益財団法人日本財団助成事業

ペアレント・プログラムを活用した子育て支援について

本事業は、日本財団様より助成金をいただき、実施させていただきました。今後、ペアレント・プログラムをより地域の実情に即した活用しやすいものにしていくためのマニュアル改訂を踏まえて、皆様の率直なご意見をお聞かせいただきたく存じます。

I. () 内の記入と、当てはまる項目の番号に○を付けて下さい。 <複数回答可>

年齢:() 歳) ・ 性別:(1. 男 2. 女) ・ 地域:()
実施資格認定年度:() 年) ・ 所属:(1. 自治体職員 2. 民間施設職員 3. その他)
実施したプログラムの対象年齢:[1. 幼児期 2. 学童期 3. その他 ()]
メインファシリテーター実施回数:[() クール ・ () 回]

II. ペアレント・プログラムについて

(1) プログラムを実施される際、進捗が難しい回があれば番号に○を付けて下さい。 <複数回答可>

[1回目 ・ 2回目 ・ 3回目 ・ 4回目 ・ 5回目 ・ 6回目]

具体的に…

(2) プログラム実施にあたり、あったらいいなと思う資料があれば、教えて下さい。

(3) 地域の実情を踏まえ、「子育て支援にもっと活用しやすくなる」、或いは、「子育て中の母親達が参加しやすくなる」と感じるプログラムの改善点等がありましたら、具体的に教えて下さい。

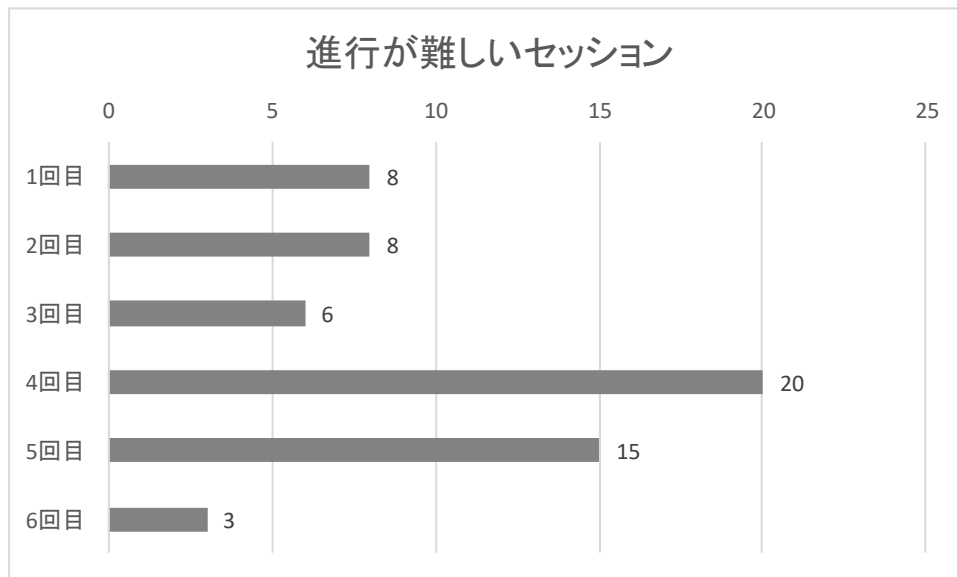
(4) 今後、あったらいいなと思う研修やサポートがありましたら、以下にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

II.ペアレント・プログラムについて

(1) プログラムを実施される際、進行が難しい回があれば番号に○を付けて下さい。

<複数回答可>



<具体的に> (記述回答例)

具体的に…
「～ない」を使わずに書く方法。
地域でペアプロが実施されるまでの協議を進めたのみ。公的機関が担っている。
用紙のワークにおいて、“気付ける”“書ける”の個人差が大きい。
内容的に、ギリギリセーフについて1時間で伝えきることが難しいです。
1時間でおさまりきらない。
「行動を見る」事が難しい保護者、ギリギリセーフを納得できない保護者、ASDの特性を持った保護者に対して。
デジタル化しても微妙な場合、ギリギリセーフにするかどうか曖昧になってしまう
まだ自分が理解することで精一杯なんで、それを保護者の方へどう分かりやすく説明するのか…。
ギリギリセーフ行動を書く時に良い案を考えるのが難しい。保護者の方が納得しないと書いてくれない。
・ギリギリセーフ、デンジャラス～・伝わったかどうか、難しかったので伝え方に苦労した。
参加者の中に、「ギリギリセーフ」の考え方を、落とし込む所が難しい。
回を重ねても、なかなか行動で書きにくい方への声かけ、修正が難しい。
継続参加につなげる。始めるにあたって、入り方!?
・アンケートやBDIをとっていると時間が足りない・母親の行動まで書き込んでいこうとすると子どもに行きつけない・子どもの行動ばかりに目が行くとギリギリセーフが見つけれられない…バランスが困難。
・堅くならない様、リラックスして受講して貰える様な雰囲気作り(1回目) ・書けない人に普段している事、出来ている事が頑張っている事！を納得して貰える様な説得力ある事例
1.2回目が助走でありその後につなげるためのものではあるが、意味を参加者にわかってもらうのと、盛り上げていくのに、難しさを感じる。「3.4.5回でグーンとあがっていきますよ！」とは伝えていますが…。
1回目…参加者の1名くらいは肯定的に考えられない、当たり前過ぎるという方が毎回いるので、その方の継続が難しい。4.5回目…ギリギリセーフとしてあがる項目、内容の選定が難しいことがある。
1回目でいかに参加者のモチベーションを上げられるか？は大事だと思っています。3回目のカテゴリー分けや項目横の関連付けは苦労される人が多いように思います。
1つの行動でカテゴリーが複数出てきたり、絞り込めない。カテゴリー名がなかなか浮かばない場合がある。ギリギリセーフの意味が伝わらない。出来ていると認められない方がいる。
2回目…教科書通りのワーク数が多くて75分で完結しないので、一部縮小して行う。宿題発表の時間決めをしないと、長くしゃべる人もいる。4回目…困ったところが左に移動してなくなってしまう人がいる。暴言暴力開示された時の対応をどうするか、注意、擁護、正当化、養育的態度など職員間で話し合いを行った。
2回目…自己肯定感の低い保護者が自分編で自分のいいところを見つけれられない。他保護者等に褒められること(褒められる自分)を受け入れられない。5回目…素直に入る人とそうでない人の差が大きい時全体(時間も)コーディネートすることが難しい、なるべくペアワークの時間を増やすようにしている。その人によって理解(ストンと落ちる)タイミングが違うな…と実感しているので個別フォローも必要になる。こういう場合もありだとマニュアルに示した方がよいと思う。

具体的に…
3回目…カテゴリーがすぎて…それで盛り上がる時もあるが、それでいいのかと(出しっぱなし?そうすね〜で終わっている)同じ内容でもカテゴリー分けすると入るところがちがってきたりする、人によって。ひよっとしたらこれも入るかもしれませんがあまり言うのもどうかと思うので、そっかー、そうですねーで終わっているが、それでよいのか…。5回目…思い通りにいかない物を投げるとして、デンジャラスタイム、タイム(いつ)・ゾーン(どこで)・パーソン(誰)・タスク(何を)。ひとつの課題に対してゾーンだけの時もあるし、タイムだけの時もタイムとパーソンの時もあるだろうが、その説明が難しい。
4回…ギリギリセーフを見つけることがむずかしい。支援者がつい答えをいってしまう。なるべく「どういうこと?」と母から答えが出るように促してはいるが…。5回…デンジャラス〜の概念だけでなく言葉がなじみず、母たちの混乱を招いてしまった。
回を重ねることで保護者がリラックスして本音が聞くことが多かった。地域での子育ての基盤にしていくには、絶対に親支援は必要。行動から見ることの大切さを伝えたい。まだ、実施まではいっていないが、途中で投げ出す保護者がいないような工夫が必要
カテゴリーに分ける作業。カテゴリー多すぎず、少なすぎずそれぞれの保護者さんにフィットするようなカテゴリー作りが難しいなと思いました。保健師さんは4回目、5回目がドキドキする(難しそうだから)と言っていました。実際はマニュアルの内容の通りに進行していましたが、そばで見ていると全く違和感、ドキドキ感なくできていたので、マニュアルに沿っていけば大丈夫なのかなというのはいわゆるわかっただけよかったです。
ギリギリセーフ行動を見つけるまでは、どうにか保護者がついてこれるが、きわめるのデンジャラスタイム理解できても子どもとの関わりの中で意識するには難しいようである。6回目のまとめのマニュアルはあっさりしていて、わざわざ1回分来たのに…という印象がある。
ギリギリセーフの内容を伝えた際、困ったところに関連したこと以外の事柄が、できているからいい、というような代替行動により、よしとしてしまう。そういう理解の方に、どこからどう伝えて理解を促せばよいか…。ベアプロ流のほめ方やデンジャラス〇〇等の枠によせて考えられない人、自己流にアレンジしてしまう人への対応が難しいなと思います。
ギリギリセーフを見つけたりきわめたりするところが発想の転換をしていくのが難しい。自分自身日頃からポジティブシンキングができていないといけななと思いました。
子どもの行動を記入する時”親が困っていること”なのか”子どもが困っていると思われること”なのか疑問を受けたことがあった。発達支援の中で子どもの困り感によりそうと、考えてしまうと答えに戸惑ってしまったことがあった。ギリギリセーフは、どの程度か保護者に伝える時悩んだ。
強いて挙げれば初回の「はじめまして」初顔合わせ〜自己紹介。我々支援者側が受講者がどのような人なのか、の情報が無い状態の場合、(稀だが)リスク等抱える保護者参加が発覚するときも。
進行が難しいというよりプログラム実施が難しい状況です。・カテゴリー分けする時・ギリギリセーフを見つける時・デンジャラスゾーンを考える時、この時に保護者の方が悩んでいる姿が見られました。
たいていのお母さんは何とか「行動でみる」事ができるようになってくると思いますが、それが上手くできないお母さんにとっては4、5回目をもっともむずかしいかなと感じます。そこをどううまく進行させていくかむずかしいところだと思います(経験がまだ少ないですが…)
まだ、行っていないので…。アイスブレイク的な時間の作り方。保護者の方で高いレベルを求める方、具体的にお子さんとの関わり部分のうすい、表出しにくい方への声かけが難しい気がします。
まだ初心者の方、全てに難しさを感じますが1回目などは進行より周りのフォロー、おさえの大切さを感じたので。ギリギリセーフのあたりは、それまでの積み重ねも影響しますが、分かりにくい方が多い回なのでよりわかりやすく、理解を深めていける方法を知っていきたくです。(今回自分はしなかつた為(進行))。もう少しわけて、ゆっくりおさえいった方がよかったのかということも6回目になって悩みました。
抑うつ傾向つよいとギリギリセーフと見ていいのか、ギリギリセーフに思えない人に対しての声かけフォローがとてむずかしい。

(2) プログラム実施にあたり、あったらいいなと思う資料があれば、教えて下さい。

(2)あったらいい資料
保護者の人の手元に現状把握表を色文字で事例が書かれている物が配られたらと思う(1~2例)(色文字)…理解しにくい人へのフォローにならないかと思うので…。開催の回ごとにその日受講したプリント(把握表)にポイントがまとめられている。
「～ない」を使わない書き方の具体例。
参加者が手元で見れるプリント資料、掲示物をA4サイズにした物があると、ワークに取り組みやすいと思う。ほとんどの方が、掲示物を見ながら、ワークに取り組んでいた。
その場をなごませるエピソード集。6回目のまとめ方の例
パワーポイント
宿題提示…「いつどこでどのようにほめられたらどんな反応だったか」のたんざく「パクル」のたんざく(今は自前で作っています)。現状把握表…よりわかりやすいもの。
ファミリー専用のマニュアルが欲しいです。
映像(実況中継的なほめ方、関わり方)マンガ等
プログラム実施の前に必要な実施機関が被政(行政と〇〇)どの場合の連携の取り方、連絡の取り方、託児の準備、支援者の集め方など、前準備に必要なのの説明があると助かる。→大分県で第1回目を開催する時に困ったので、準備すべきことを大分大子でまとめて県内8地域で実施していく、児発の先生方に共有してもらった。
ギリギリセーフ行動の例がたくさん書かれた表があると参考になる。
・今後、アプリ?等が開発予定と以前伺いましたが、書いて記入する場合もう少し効率的な書式になればなあと思います(何度も書いて頂くので。付せんの活用も考えましたが、取れてしまう事や経過がわかるために…という事等考え、そのままで使用しました)。・保護者の傾向に応じたフォローの方法やおさえておくべきこと等。特にCA関係。事後の研修での助言を参考にさせて頂いていますがより多く知りたいです。・書き方が難しい方、捉え方が難しい方への具体的な例文は多いほど助かります。・大人(自分)編のおさえ、子供編のおさえの各回ポイント(進行上どちらかに重点を置かざるを得なくなった時があった為)。
スーパーバイスを行って下さる先生が、講座で話して下さったポイントがマニュアルにあれば、メイン進行をする際にやりやすくなるのではと思います。
小ネタ集、実施者の資質にあわせてトークマニュアル
保護者の方の声(子育ての変化、効果等)。マニュアルの中に例が多くある等、まずは実施が出来る様な…
行政、教員、保育士、学童指導員さんにペアレントプログラムの良さを出来るだけ簡潔に伝えられる、資料があると嬉しいです。
養育的態度、抑圧的態度、批判的態度、無視的態度をモデルにしてこどもの気持ちはどうかと体験するのはどうでしょうか。ペアレントプログラム以外になるかもしれません。感情に焦点をあてるのは、認知行動療法の立場ではないことは理解しています。
ゲームをやめられない、ゲームで家族や友だちとトラブルになってしまう児童の方へのアプローチに関するペアプロでの事例などあれば
プログラムの間の話…つながりが難しい。プログラムの間でどのような例で伝えたら良いのか今まで行った研修会での有効な資料があれば進行がスムーズに進み、保護者がなごんだ雰囲気を楽しめる研修になるのでは…。
ホワイトボードへ貼るスターターキットも活用させていただいていますが、スクリーン用のデータも欲しいなと思い、PPで作成してみました。実際はスターターキットを使用していますが。
「行動で表現する」など言葉で説明している内容を一番重要なポイントにしぼって①絵(イラスト)を使って説明する資料や②お母さんのセリフを顔のイラストと吹き出しで表現する資料など文字+αの資料があるといいかもしれません。
行動を見てそれを書く、という事が難しいという保護者が多いので助言しやすい資料があると良いです。
行政向け事業基本プログラムパッケージワーク
実践の手引きに合った保護者へのコメント参考資料
資料を取ってから実施する機会なく数年過ぎてしまったため、いざ実施するとなるとやり方がわからないかもと不安に感じています(マニュアルを見て学び直せば良いのですが…)改訂で小ネタやギリギリセーフの例などが追加されたらとてもありがたいです。
自己肯定感をあげていくことが子育てにおいてとても重要であることのエビデンスの資料等、提示できるといいなと思う事があります。

- (3) 地域の実情を踏まえ、「子育て支援にもっと活用しやすくなる」、或いは、「子育て中の母親達が参加しやすくなる」と感じるプログラムの改善点等がありましたら、具体的に教えて下さい。

(3) プログラムの改善点
子育てに困っていると言うだけでなく診断前後、引きこもり等の子どもさんの保護者の方へ支援団体、行政窓口を通じて情報を届ける。その実施内容が案内チラシの中で具体的に示されている様にする。
宿題をなくす。
一般的な子育ての中にもっと啓発するとよい
忙しいお母さん達が6回出てくるのが大変だと言う意見がいくつか出ました。6回行う意義はよく理解できるのですが、もう少し回数を少なくするとより参加しやすくなるかと思います。
療育(通所)している保護者は、何とか一定の間隔でプログラムを実施していけるが、保育園・幼稚園で実施すると、決められたスケジュールでのプログラム実施は難しいのかなと思う(未実施ですか)
地域子育て支援センターの質の向上
保育師さんにもっと周知していただければ良いなと思います。
・ペアプロ…6回参加がなかなか難しいので、短縮版があるといいです(時間の回数)・人数が多い時でも出来るペアプロ(現状ではスタッフを増やしてやる)・単発でもできるペアプロ(現状では自分のいいところと子どもの困ったところ、ギリギリセーフまで)
就学審査会などに挙げた親へ案内して、という流れ(システム)を作る。
地域の事務所同士の勉強会情報交換会がもう少しできたらいいなと思います。(今もやっては頂いていますが…)
・保健所での実施、大学院での人材養成(心理士)・国や小学校での先生と親を巻き込んだ実施・プログラムの改善だけでなく地域の中で実施し続けていくための、広げていくためのノウハウ。
特になし
子どものためにとがんばっている母ばかりではないので、6回続かない方もいる。また、導入で児童セミナーや子育て広場にたまたま遊びに来た方が参加できるエッセンスみたいなものがあったらなら、がんばれる人が増えると思います。
・今の中の工夫で出来る範囲ですが、なるべく書く宿題はすくなるようにする。
行政機関が実施に対して協働が難しい場合、他県での実例が知ることができれば。一自治体あたり整備事業支援費が出ているところを初めて知りました。このプログラムの有効性を、うつの改善などもっと前面に出して取り組みのきっかけ作りにもしてもらいたいです。
身近な場所で開催した方が参加しやすい。6回全回参加が、難しいという保護者が多いのが実情。
全6回にも参加しにくい方に向けてまずは、内容を知ってもらうために地域のサークル等で紹介しやすい簡易版、体験版のようなものがあれば…
1回の時間が2時間ぐらいでも構わないので、回数が4回ぐらいだと参加しやすいと思う。働いている親が多いので。
どんな時(タイム)だけ見てからまとめる、ゾーンだけ見てからまとめるの方がやりやすいかなと思った。タスクは難しいねーみたいな。

(3) プログラムの改善点
託児の用意…となると大変な為、こどもを預かる施設で実施できる方法を探してもらいたいと思ったりしています。
・ゲーム依存に悩んでいる親子さんが多いと思う。親子さんが困っている所に焦点を与えると、親子さんが関心をもってもらえないかと思う。
ギリギリセーフの例(私の場合)スーパー行ったら怒られ坊主で泣いているが母が何も説明しないで去って行って泣きながらついていく子よく見ますよね。ていねいに説明して下さいね。「2個までやよ、ここでは食べんよ」と。
働くお母さんでも参加しやすくするにはどうしたらよいか
回数は確かにハードルが高いと思いました。高知県民はコツコツ続けていくのが県民性なので。でも、5回目あたりの参加者の変化を見ると、6回の回数はやはり大切だなと感じます。「6回の回数が必要!!」「6回だと変われます!!」というのをアピールしてほしいところです。特に行政は(県も市町村も)回数のことをとても言います。そのたびに訴えてはいますが。
宿題として、現状把握表を持ち帰っても子育てや仕事をしていると忙しくてできない人もいますので、その場で考えて書けるといいと思います(時間にゆとりがあれば)
ペアプロを知っている保育師さんや学校の先生など身近な方と話題を共有できると活用、参加しやすくなると思いますが、まだまだ「特別な」「むずかしい」ものにとらえている人も多いと思うので…
長崎県でペアプロをどう活用していくのかビジョンが見えていない。今の所、実施資格認定者はそれぞれの所属先で実施するだけで留まっており、市町村として子育て支援事業に組み込むような動きがとれるのかもわからない状況(実情のみ書かせていただきました)。
1時間6回コースは働いてる方が参加するにはハードルが高いと思うので、支援者が日常的に使えるスキルが向上出来るようなものがあると良いと思います。
子育てに関する講座は市町が運営しており、民間の施設として実施する場合に市町との兼ね合いを考える必要がある。ペアプロがどのような内容なのかを市町の役員にも知ってもらって市町から対象になりそうなお母さん達に紹介してもらったり参加を促してもらわないと参加者が集まらないのではと思っています。市町の職員にどのようにペアプロの良さを伝えたら良いのでしょうか？
託児があるかないかは参加しやすさに影響します(ただ託児スタッフの確保とリスク管理には苦慮しております)。保健センターでの広報周知がもつとけると拡がるだろうなということを感じています。

(4) 今後、あったらいいなと思う研修やサポートがありましたら、以下にお書き下さい。

(4) 研修、サポートについて
幾つかの保護者の方の特質によりサポート、助言、保護者同士のペアワーク時の注意事項、まちがしやすい運用内容、準備、振り返り時に話し合いが必要な事項、ポイント等継続して受講してもらえる工夫、フェードアウトしてしまいそうな時の対応。
JASPER実践研修
自治体への研修 国→県(市町への浸透の強化推進、教育との連携)→市町
今日のような研修(講義と実践発表)
職場のお子さんがA判定のASD児が多いためペアプロが家庭で活用しづらい。このような方に合った行動の捉え方+支援の方法を分かりやすく保護者の方へ知らせる方法。
いろいろお願いします。
特になし
家庭だけでは、子どもの成長がよりよくなると思います。今日、保育所等であったので現場の先生はよりよい成長をと考えているので、ただ個別でというのはまだ、むずかしく、でも個別でみることの大切さも実践など聞けると伝えやすいかと思いました。
・具体的な助言→実際の記入例や発言や保護者の傾向の例(アドバンスは受けたことがないので、そのような内容になるのかと思います)。
今回のような研修、サポートを定期的に行っていただきたいですが、参加できない場合もメールリストやネットを使ったサポートがあればと思います。
SPACE記録用紙のつけ方、実習をたくさん出来れば自分にもできるようになるのかなと思いました(事例をたくさん見て)。浜田先生の後半の内容(実習)を一日とか半日やれたらいいなと思います。★最後の回でおわりに絵本「ええところ」くすのきしげのり作を読んでいます(大人に絵本を、というところ)です。
直接子どもに支援できるようJASPERを身に付けていきたいです。ペアプロ休暇、賛成です。
今年度1クールで11月実施で計画しています。一昨年のペアプロに参加された保護者の方から話を聞いた多くの方からペアプロに参加したという声が多い中、中々実施が出来ていない状況でした。実施するにあたって、不安も多くありますので、サポートを頂きながら、ペアプロが私たち地域に定着して行けたらと思います。
小学校で、準スクールカウンセラー。相談員をしていて、保護者向け、教員向けに、ペアレントプログラムを活用する努力をしたいと思っている。
教えてあげたら納得しますよね。ちゃんとゆっくりしていねいに話してあげて下さい。
保護者だけでなく学童の職員や学校の教員が現場でプログラムとして取り組むための具体的な方法や機会を作りたいです。
子育て支援→親になった保護者→妊婦健診とか出産前から手を差し伸べることができたら虐待(シングル)が減らせるのでは。
アドバンス開催待ちとなっています。去年研修型に参加した支援者が今年度、児童家庭支援センターで助成金をとってペアプロを実施しようと予定していましたが、認定対象とならなかったため、ペアプロのかわりにベビーマッサージを今年度はやることにしました。また自治体は異動があるので、実施までに間が空いてしまうと、スター出来ず立ち消えそうと心配しています。
JASPERやSPACEのことが今回の研修で知ることができました。これを実践できるようになるために(正しく評定できるようになるために)事例検討するような内容の研修があるといいと思います。また環境設定(遊び別で玩具の種類、具体例)の点はより深く知りたいと思っています。
ていねい研修していただけて感謝しています。できればサポートを1年目だけではなく、継続的(必要時)にお願いできたらと思います。
ペアレントプログラムで行動を見る、客観的に理解する力をつけた上で、JASPERの手法が勉強出来るような研修サポートがあると良いです。
6回やった後のフォローアップ(保護者の必要性を感じています)、6回+フォローアップ1回で実質7回でとりくみたい
・市町村向けのペアプロ導入セミナーのようなもの・市町村向けにペアプロを説明するための啓発パンフレットのようなもの

発行 特定非営利活動法人 アスペ・エルデの会

〒 452-0821

名古屋市西区上小田井 2-187

メゾンドボヌー小田井 201 号室

TEL/FAX 052-505-5000

Mail info@as-japan.jp